厚生労働科学研究費補助金　がん対策推進総合研究事業

がん対策における患者・市民参画を推進するための標準教育プログラムの開発と確立に関する研究

令和７年度　総括研究報告書

研究代表者　渡邊 清高

令和８（2026）年　５月

別紙２

目　　次

Ⅰ．総括研究報告

がん対策における患者・市民参画を推進するための標準教育プログラムの開発と確立に関する研究　渡邊清高

---------- 1

資料１：カリキュラム・コード改訂版

資料２：eラーニング教材一覧

資料３：研究班ウェブサイト「がん対策・がん研究　患者・市民参画　マナビの広場」

資料４：都道府県向け　がん対策における患者・市民参画推進に関する調査

資料５：学術団体向け　がん対策・がん研究における患者・市民参画に関する意識調査

資料６：カリキュラム・コードを適用した専門研修

II．分担研究報告（なし）

III．研究成果の刊行に関する一覧表　---------- 8

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
総括研究報告書

がん対策における患者・市民参画を推進するための標準教育プログラムの開発と確立に関する研究

研究代表者　渡邊　清高　帝京大学医学部内科学講座　教授

研究要旨：本研究は、がん対策における患者・市民参画（Patient and Public Involvement：PPI）を推進するための標準教育プログラムを開発・確立し、患者・市民、医療者、行政、研究者等が協働してがん対策を推進できる基盤を整備することを目的とする。近年、がん対策推進基本計画等において患者・市民参画の重要性が示されている一方、患者・当事者および医療者・行政担当者双方に対する体系的教育・学修プログラムは十分整備されていない。本研究では、前身研究班で整理された 13 項目の患者・市民参画コンピテンシーを基盤として、「がん研究」中心であった教育体系を、「がん予防」「検診」「療養支援」「就労支援」「政策形成」等を含む“がん対策全体”へ拡張することを目指した。
令和７年度は、教育プログラム開発の基盤整備を中心に研究を進めた。まず、国内外の PPI 教育プログラムおよび実践事例を整理し、海外事例を参考について、制度設計、教材構成、評価法等の情報収集を行った。その上で、13 項目のコンピテンシーに基づき、がん対策推進協議会への参画、予防・検診、研究参画、療養支援等を含めた改訂版カリキュラム・コードを策定し、令和７年 12 月までに確定した。
また、改訂版カリキュラム・コードに基づき、患者・市民向け e ラーニング教材の開発準備を進めた。動画 11 本を想定し、各教材モジュールのテーマ、学修目標、構成案を整理した。さらに、研究班のポータルサイト（マナビの広場：https://plaza.umin.ac.jp/ppi-ed/）を拡充し、今後の教材公開および情報発信の基盤を整備した。
量的調査としては、全国 47 都道府県のがん対策担当部署を対象とした調査票を作成し、令和７年 11 月より調査を開始した。調査項目には、PPI 実施状況、教育ニーズ、参画体制等を含めた。また、学術団体向け調査についても、患者・市民参画の認知、実施状況、教育ニーズ等を把握するための調査票を令和７年 12 月までに確定し、令和８年３月からの調査開始に向けた準備を進めた。
以上より、令和７年度は、患者・市民参画教育プログラムの全国展開に向けた基盤整備を計画どおり進めることができた。今後は、e ラーニング教材の制作・公開、教育効果検証、モデル研修実施を通じて、実効性の高い PPI 標準教育プログラムとして発展させる予定である。

研究分担者
有賀悦子
帝京大学医学部緩和医療学講座　主任教授
片山佳代子
群馬大学大学院情報学研究科　准教授
佐々木治一郎
北里大学医学部附属新世紀医療開発センター横断的医療領域開発部門臨床腫瘍学　教授
増田昌人
琉球大学病院がんセンター　特命准教授
大久保由美子
帝京大学医学部医学教育学講座　主任教授
桜井なおみ
キャンサー・ソリューションズ株式会社　代表取締役社長

Ａ．研究目的

本研究の目的は、第４期がん対策推進基本計画において重視されている「患者・市民参画（Patient and Public Involvement：PPI)」を、がん予防・医療・共生の各領域において横断的かつ実効性のある形で推進するための標準教育プログラムを開発・確立することである。患者・市民参画をがん対策において持続的に定着させるためには、患者・市民のみならず、医療従事者、研究者、行政担当者等が、参画の意義や方法を体系的に学び合い、共通理解を形成できる教育基盤の整備が不可欠である。

近年、日本医療研究開発機構（AMED)「患者・市民参画（PPI）ハンドブック」(2019 年作成、2024 年追記）や研究者向けガイドライン等を通じて、臨床研究分野を中心に PPI 推進が進められている。しかし、現状では研究者・医療者への啓発が中心であり、患者・市民に対する体系的な教育・学修機会は十分とはいえない。また、自治体や地域における実装モデル、継続的な学修機会、教育プログラムの標準化についても十分な整備はなされていない。特に、がん対策推進協議会、都道府県協議会、患者支援活動、地域啓発活動等、がん研究以外の領域を含めた「がん対策全体」を対象とした PPI 教育体系は

未整備であり、地域差や組織差も大きい状況にある。

本研究では、厚生労働科学研究費補助金「がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究（研究代表者　有賀悦子（帝京大学医学部緩和医療学講座：令和４～６年度）」の成果を基盤として、患者・市民が参画に必要な知識・態度・スキルを段階的に学修できる13項目のコンピテンシーに基づく教育体系を継承・発展させる。従来の「がん研究」中心の教育内容を、「がん予防」「検診」「療養支援」「就労支援」「地域共生」「政策形成」等を含む“がん対策全体”へ拡張し、患者・市民と医療者が協働して活用可能な標準教育プログラムとして再構築することを目指す。

令和７年度は、13 項目のコンピテンシーに基づく改訂版カリキュラム・コードの開発を行うとともに、がん予防・医療・共生の３領域をカバーするｅラーニング教材の企画・設計を進め、ポータル上で利用可能な教育基盤を整備する。また、全国都道府県のがん対策担当部署や関連学術団体を対象として、患者・市民参画の現状、教育ニーズ、課題等を把握する量的調査を実施し、今後の教育プログラム設計および地域実装に活用する。さらに、がん対策推進協議会、都道府県協議会、関連学会、患者支援団体等との連携体制を構築し、将来的なパイロット研修および地域実装モデルの形成につなげることを目指す。

本研究の特色・独創性は、①がん対策全体を対象としたPPI 教育の体系化、②AMED 等の政策的枠組みや既存研究成果と接続した教育設計、③自治体・学会・患者団体等との連携による現場・地域レベルでの実装を重視している点にある。また、ｅラーニング教材およびポータルサイトを活用した継続的かつ持続可能な運用体制を整備することで、地域差を超えて広く活用可能な教育・学修基盤の構築を目指している。

本研究を通じて、患者・市民と医療者・研究者・行政担当者等が協働し、科学的・倫理的・社会的妥当性の高いがん対策を実現できる体制整備に寄与することを目指す。

Ｂ．研究方法

＜研究全体の計画・方法＞

本研究は、がん対策における患者・市民参画（Patient and Public Involvement：PPI）を推進するための標準教育プログラムを開発・確立し、政策立案、施策実施、がん研究、地域活動等における患者・市民参画の質的向上と制度的定着を図ることを目的として実施した。研究期間は令和７年度から令和８年度までの２年間であり、令和７年度は初年度として、教育プログラムの設計・基盤整備・量的調査設計を中心に実施した。

研究代表者は全体統括を担当し、教育プログラム設計、調査設計、研究進行管理を行った。研究分担者および協力者は、それぞれの専門性に応じて、教育設計、教材開発、地域実装、評価設計、調査解析、患者・当事者支援等を分担した。

【研究体制と役割分担】

研究代表者は、全体の統括および教育プログラムの設計を担う。研究分担者および協力者は以下の役割に分かれて研究を担った。

･教育設計：PPI コンピテンシーの策定、カリキュラム・コード設計

　コンピテンシー改訂版作成（有賀班のコンピテンシーの改版）およびコード改訂：

　渡邊（代表）、大久保（医学教育：分担）、有賀（分担）、江口英利（JSCO:大阪大学　協力）、調憲（JSCO:群馬大学　協力）、佐々木（JSMO：分担）、藤田直也（JCA：がん研究会　協力）、渡邊/桜井（JASCC：分担）、野田真由美（支えあう会「α」協力）、樋口麻衣子（富山大学　協力）、

･教材開発：ｅ ラーニング教材の制作とポータルサイト運営（ICT 教育・映像制作、学会関係者）

　片山（群馬大学：分担）、大塚（片倉）良子（帝京大学　協力）、JASCC 教育研究開発ワーキンググループ

･地域実装：モデル自治体との調整、地域研修の企画・実施（自治体職員、患者団体関係者）

　片山（神奈川県・群馬県：分担）、佐々木（神奈川県：分担）、増田（沖縄県：分担）、JASCC 患者・市民参画ワーキンググループ

･評価・普及 WG:評価手法の開発、アンケート設計・解析、普及戦略の立案（疫学・統計専門家、学会関係者、広報・政策担当）

　渡邊（代表）、片山（分担：疫学・統計専門家）、大久保（分担：医学教育）

疫学・統計専門家は、量的調査の設計・分析を主に担い、質問票設計、回収率向上戦略、統計解析手法を担当した。

【研究環境とフィールド】

本研究は、研究代表者および分担者の所属機関（帝京大学、群馬大学等）に整備された教育支援・ICT 環境を活用し、教材制作とデータ分析を行った。Web ポータルの構築･配信は前身の研究班（有賀班）の成果物を維持更新し、外部協力業者と連携して実施することで実効性を確保し迅速に研究を施行するとともに成果を広く還元した。教育プログラムによる ｅ ラーニング上での教材開発と公開、研

修の実施・効果測定は、PPI において先駆的な取り組みを進める自治体（神奈川県・沖縄県等）をモデルとし、がん対策推進協議会、がん診療連携拠点病院の協力者、患者・当事者、自治体の職員を協力者として参画を得ることとした。また、若手・女性の参画に関しては、小児・AYA 世代、妊孕性温存、アピアランスケア、長期フォローアップなど関連の強い施策を含めて、広く研究者・患者支援者から協力者を得る構成とした。既存の学術団体の患者・市民参画プログラムや患者会・患者支援団体などと連携することで、患者・市民参画の実現に必要なリーダーシップ、技能や態度の修得に必要な機会を提示するものとした。

【教育プログラムの設計と開発】
がん研究における PPI の推進を目的として教育プログラムを開発した前身研究班での議論および成果を承継し、がん対策として必要な以下の内容を網羅するカリキュラム・コードの改訂および必要なコンピテンシーの追加改訂を実施した。その上で、コンピテンシーの修得を実現する e ラーニングのモジュールを 10 コンテンツ程度新規制作することとした。トピックに応じて外部の専門家の協力を得て制作した。
初年度の段階での試行的活用に加え、２年度目（令和８年度）にも改訂版の評価機会を設けることを前提として整備を進めた。初年度に得られた受講者からの定性的フィードバックや理解度スコア等に基づいて教材を改訂し、２年度目に改訂教材の再評価（第２回評価）を実施することで、質の向上を図る。プログラムは複数モジュール構成とし、「入門編」「応用編」など段階的な学修設計とすることで、幅広い利用者にとって分かりやすく利用しやすい構成を目指した。

【量的調査の計画】
令和７年度に、全国 47 都道府県のがん対策課およびがん対策推進協議会担当者を対象に、PPI の現状と課題、教育ニーズを把握するアンケート調査を実施する。対象者は各県を想定し、調査票を配布、回収率 80%以上を目指した。調査項目は以下の通り：
･がん対策推進協議会への患者・遺族・市民委員の参画状況、年代、性別
･教育プログラムの導入ニーズの有無
･希望する研修形態・内容（複数選択）
･協議会の任期、選考方針
･自治体が担うべき支援機能　など

さらに、がん関連学術団体を対象とした患者・市民参画に関する調査票を設計した。調査内容は、患者・市民参画の認知状況、実施体制、教育ニーズ、委員選定方針等とし、令和８年３月からの調査開始に向けて準備を進めた。

教育効果評価については、将来的な e ラーニング教材公開および地域研修実施を見据え、受講前後アンケート、理解度テスト、態度評価スケール等を用いた評価設計を行った。理解度テストは 10 問程度の選択式問題を想定し、横断研究による pre-post 比較分析を基本とした。解析方法として、記述統計、対応のある t 検定、χ二乗検定、因子分析等を計画した。尺度の妥当性については、前身研究班におけるデルファイ法および先行研究レビューによる内的妥当性を基盤とし、「がん対策」領域への拡張にあたっても同様の方法で内容妥当性を担保する方針とした。

また、海外の患者・市民参画教育制度との比較検討を目的として、英国、米国等に関する既存文献、報告書、オンライン情報等を収集した。教育制度、教材設計、評価方法、制度運用等について比較検討を行う計画とした。現地訪問は実施せず、オンラインを中心とした情報収集を行った。

（倫理面への配慮）
研究倫理については、研究代表者および研究分担者が所属する機関に倫理審査申請を行う方針とし、アンケート調査および教育評価においては、個人情報保護および匿名化等を含めた研究倫理に十分配慮して実施する計画とした。学術団体を対象とする調査においては倫理審査にて承認を得て実施した。
がん対策・がん研究における患者・市民参画に関する意識調査（承認番号:帝代 25-006-２号）

Ｃ．研究結果
１．研究全体の流れと年次計画に関する成果
令和７年度は、本研究の初年度として、患者・市民参画（PPI）を推進するための教育基盤整備を中心に研究を実施した。具体的には、①国内外の PPI 教育プログラムおよび実践事例の整理、②13 項目のコンピテンシーに基づく改訂版カリキュラム・コードの開発、③e ラーニング教材の企画・構成整理、④Web ポータルサイトの構築・公開、⑤自治体との連携体制構築、⑥都道府県および学術団体向け量的調査の設計と実施からなる。

当初計画では、令和７年度を「教育プログラム開発および基盤整備」の年度として位置づけ、概ね計画どおりに進行した。特に、改訂版カリキュラム・コードの策定、Web ポータルサイト公開、都道府県向け調査については年度内に達成し、学術団体会員向け調査についても各団体の協力のもと開始することができた。

２．研究体制と役割分担に関する成果

研究代表者を中心として、教育設計、教材開発、地域実装、評価設計、統計解析、患者・当事者支援等を担う研究分担者・協力者による研究体制を構築した。

教育内容の整理においては、医学教育専門家、がん関連学会関係者、患者支援団体関係者、患者・当事者等が参加し、多職種・多領域による検討体制を整備した。また、日本臨床腫瘍学会（JSCO）、日本臨床腫瘍学会（JSMO）、日本癌治療学会（JCA）、日本がんサポーティブケア学会（JASCC）等の関係者と連携し、がん対策全体を対象とした PPI 教育の方向性を整理した。

３．研究環境とフィールドに関する成果

研究代表者および分担者の所属機関である帝京大学、群馬大学等に整備された教育支援・ICT 環境を活用し、教材設計、調査設計、データ管理等を実施した。
Web ポータルサイトについては、前身研究班の成果物を継承・更新する形で整備し、外部協力業者と連携して構築を行った。令和７年度内に研究班 Web サイト（がん研究・がん対策　患者・市民参画　マナビの広場：https://plaza.umin.ac.jp/ppi-ed/）を公開し、今後の教材公開・情報発信・成果共有の基盤を整備した。

４．教育プログラムの設計と開発に関する成果
（１）改訂版カリキュラム・コードの開発
前身研究班において整理された13項目の患者・市民参画コンピテンシーを基盤として、既存の「がん研究」中心の教育内容を、「がん予防」「検診」「療養支援」「就労支援」「地域共生」「がん対策推進協議会への参画」等を含む“がん対策全体”へ拡張した改訂版カリキュラム・コードを策定した【資料１】。

具体的には、

「領域-参画」がん対策への参画
「がん」予防・検診・小児/AYA世代・高齢者
「研究」がん研究（予防・検診・疫学・政策研究）
「ELSI」倫理・関連法規・社会的課題
等を含む構成へ整理した。

また、患者・市民が段階的に学修可能な構成とするため、「入門編」「応用編」等の教育設計方針についても整理した。

（２）eラーニング教材の企画・設計
改訂版カリキュラム・コードに基づき、患者・市民向けeラーニング教材の企画・構成整理を行った。教材は動画11モジュールを想定し、

がん対策への参画
小児がん、がんゲノム医療
緩和ケア、心のケア、リハビリーテーション、アピアランスケア、相談支援と情報提供
がん対策（政策評価・ロジックモデル）
協議会への参画
倫理・関連法規・社会的課題（ELSI）
等を中心テーマとして整理した【資料２】。

令和７年度は、教材テーマ、学修目標、想定対象者、到達目標、シナリオ構成案等の設計を中心に実施した。動画収録・編集等の本格的制作は順調に進捗しており、次年度以降に公開する計画とした。

（３）ポータルサイトの構築

研究班ポータルサイトを構築・公開した。
【資料３】
本サイトは、

eラーニング教材公開
研究成果共有
情報発信
将来的な学修履歴管理
等を目的として整備した。

令和７年度は、基本構成の構築、掲載内容整理、公開準備を行い、年度内に拡充公開した。

５．量的調査に関する成果
（１）都道府県向け調査

全国47都道府県のがん対策担当部署を対象として、患者・市民参画の現状、協議会委員の選定・選考方針、PPIに関する教育ニーズ、課題等を把握するための調査票を作成した。

調査項目として、

PPIに関する理解・実施状況
教育ニーズ
希望する研修形態
患者・遺族・市民委員の参画状況
自治体が担うべき支援機能
等を設定した【資料４】。

調査票は厚生労働省との調整を経て確定し、令和７年11月より調査を開始した。令和８年３月には、研

究代表者（渡邊）および分担研究者片山・有賀を中心として、調査票配布、回収支援、解析準備を進めた。

（２）学術団体向け調査

がん関連学術団体を対象として、患者・市民参画の認知状況、実施状況、教育ニーズ等を把握するための調査票を作成した【資料５】。

調査項目として、

PPIの認知・実践状況
患者・市民参画の経験有無
教育・学修ニーズ
学会として必要な支援
等を整理した。

令和７年12月までに調査票を確定し、令和８年３月からの調査開始に向け、対象団体整理、調査システム準備、回収方法検討等を実施した。

がん関連学術団体で実施されている、カリキュラム・コードを使用している研修会について情報収集した【資料６】。

Ｄ．考察
本研究は、第４期がん対策推進基本計画において重視されている「患者・市民参画（PPI）」を、がん予防、がん医療、がんとの共生の各領域において横断的に推進するための教育基盤を整備することを目的として実施した。令和７年度は初年度として、教育プログラム開発および実装に向けた基盤整備を中心に研究を進め、改訂版カリキュラム・コードの策定、Webポータルサイト公開、都道府県調査開始等、概ね当初計画に沿った進捗が得られた。

まず、改訂版カリキュラム・コードを策定できたことは、本研究の中核的成果であると考えられる。従来、患者・市民参画に関する教育は、「がん研究」領域を中心として発展してきたが、本研究ではこれを「がん予防」「検診」「療養支援」「就労支援」「地域共生」「政策形成」等を含む“がん対策全体”へ拡張した点に意義がある。第４期がん対策推進基本計画では、患者・当事者の視点を施策へ反映することの重要性が強調されているが、そのためには、患者・市民だけでなく、医療従事者、研究者、行政担当者等が共通基盤のもとでPPIを理解し、実践できる教育体系が必要である。本研究で整理した教育体系は、そうした共通基盤形成に資する可能性がある。

また、全国都道府県を対象とした量的調査および学術団体向け調査を設計・開始したことは、患者・市民参画の現状や教育ニーズを可視化し、地域特性や組織特性を踏まえた教育プログラム設計へつなげる上で重要な進展であると考えられる。現状では、患者・市民参画に関する理解や運用方法には自治体間・学術団体間で差があることが想定されるが、本研究により、全国的な実態把握の基盤が整備される。今後、患者・遺族・市民委員の参画状況を含めた調査結果を分析することで、患者・市民参画の推進に必要な支援内容や教育課題を具体化できる可能性がある。

さらに、調査を通じて各都道府県との連携体制を構築したことは、地域レベルでの実装可能性を検討する上で重要な成果であった。患者・市民参画は、単なる理念ではなく、地域のがん対策推進協議会、がん検診啓発、療養支援、就労支援、研究参画等の現場において具体的に機能する必要がある。本研究では、自治体、患者支援団体、がん診療連携拠点病院等との協力体制を整備することで、今後のモデル研修実施や地域実装へ発展可能な基盤形成を進めることができると考えられる。

eラーニング教材およびポータルサイトの整備についても、本研究の重要な特徴である。患者・市民参画を全国的に推進するためには、地域差や所属組織に依存せず、誰もが継続的に学修できる環境が必要である。本研究では、動画教材を中心としたデジタル教育基盤を構築することで、「誰一人取り残さないがん対策」に資する持続可能な教育モデルの構築を目指した。限られた行政資源や人的資源を補完しながら、患者・市民のみならず、医療者、研究者、行政担当者等が共に学べる環境整備につながる可能性がある。

一方で、令和７年度は基盤整備段階であり、eラーニング教材の本格制作、教育効果検証、モデル自治体でのパイロット研修、教育プログラム改訂等については次年度以降の課題として残されている。特に、患者・市民参画に必要な知識・態度・技能をどのように評価し、教育効果として可視化するかについては、今後さらに検討が必要である。また、患者・当事者、医療者、行政担当者等では求められる役割や背景が異なるため、多様な対象者に対応した段階的・柔軟な教育設計が求められる。

さらに、本研究では英国NIHR(INVOLVE)や米国PCORI等の海外PPI推進制度について情報収集を行ったが、日本においては制度的・文化的背景が異なることから、単純な導入ではなく、日本の医療制度や地域特性に適した実装モデルを構築する必要があると考えられる。その意味で、本研究が自治体や患者支援団体との連携を重視し、地域実装を前提として進め

ている点は重要である。

最終年度に向けては、令和７年度に整備したカリキュラム・コードおよび教育設計を基盤として、eラーニング教材の制作・公開、モデル自治体との研修実施、教育効果検証、プログラム改訂を進める予定である。また、都道府県調査および学術団体調査の結果を統合的に分析することで、患者・市民参画に関する教育ニーズや地域課題を明らかにし、全国展開可能な教育モデルとして発展させることを目指す。

本研究は、厚生労働行政が掲げる「がん対策の充実」と「患者・市民参画の推進」という２つの重点課題に対し、教育を通じて具体的に貢献するものである。患者・市民と医療者・行政・研究者等が協働し、科学的・倫理的・社会的妥当性の高いがん対策を実現するための人的・制度的基盤整備につながることが期待される。

Ｅ．結論

本研究は、第４期がん対策推進基本計画において重視される「患者・市民参画（PPI）」を、がん予防、がん医療、がんとの共生の各領域において横断的に推進するための標準教育プログラムを構築することを目的として実施した。令和７年度は初年度として、教育プログラム開発および地域実装に向けた基盤整備を中心に研究を進め、概ね当初計画に沿った成果を得た。

具体的には、13項目の患者・市民参画コンピテンシーを基盤として、「がん研究」中心であった既存教育体系を、「がん予防」「検診」「療養支援」「就労支援」「地域共生」「政策形成」等を含む“がん対策全体”へ拡張した改訂版カリキュラム・コードを策定した。また、患者・市民向けeラーニング教材の企画・構成整理、ポータルサイトの構築・公開、都道府県向け調査の開始、学術団体向け調査の設計・準備を実施した。

さらに、自治体や、学会、患者支援団体等との連携体制を整備し、今後の地域実装およびモデル研修実施に向けた基盤形成を進めた。

令和８年度は、ｅラーニング教材の制作・公開、教育効果検証、モデル研修実施、調査結果解析を進めるとともに、教育プログラムの改訂および普及方策の検討を行う予定である。本研究を通じて、患者・市民、医療者、研究者、行政担当者等が協働し、科学的・倫理的・社会的妥当性の高いがん対策を推進するための人的・制度的基盤整備に寄与することが期待される。

Ｆ．健康危険情報

該当なし

Ｇ．研究発表

1. 論文発表

2. 学会発表

1) 渡邊清高　在宅のがん療養者への情報提供～対話型 AI 搭載相談サービス「ランタン」の可能性～　第 2 回危機管理医学会総会・学術集会 2026 年 2 月 15 日、名古屋
2) 渡邊清高　～AI で変わる？情報アクセスの未来～　World Cancer Week2026　2026 年 2 月 1 日　オンライン
3) 渡邊清高　がん情報とのつき合い方　AI 時代にどう向き合う？　がん患者学会 2025　2025 年 11 月 30 日
4) 渡邊清高　医療者が医学的に正しい情報を見極めるために　第 20 回日本医療の質・安全学会学術集会　2025 年 11 月 8 日
5) 渡邊清高、 木川幸一、篠﨑勝則、岡本禎晃、田村和夫、佐伯俊昭　がんのチームケアと地域連携を推進する教育プログラムの展開と成果　第 63 回日本癌治療学会学術集会　2025 年 10 月 17 日
6) 渡邊清高、佐藤修、筆宝義隆、児玉龍彦　大規模言語モデル（LLM）を用いた AI 搭載がん相談サービス「ランタン」の可能性　第 63 回日本癌治療学会学術集会　2025 年 10 月 17 日
7) 渡邊清高、関順彦　がんロコモ対策―薬物療法　日本医師会雑誌　154(5)491-494　2025 年 8 月
8) 有賀悦子、片山佳代子、渡邊清高　がん研究の患者・市民参画：学びを結ぶ体系的カリキュラム開発　第10回日本サポーティブケア学会学術集会　2025 年 5 月 18 日
9) 渡邊清高　医療者教育の現状と JASCC 専門認定制度の概要　第10回日本サポーティブケア学会学術集会　2025 年 5 月 17 日
10) 渡邊清高　高額療養費制度見直しに対するがん領域の学術団体の声明とその意義―患者・当事者の声を反映した持続可能な社会保障制度を目指して　第 10 回日本サポーティブケア学会学術集会　2025 年 5 月 18 日
11) 池谷のぞみ，酒井由紀子，渡邊清高，大林晃美，藤阪康司，彦田かな子，中山健夫　医療と生活をつなぐ場としての図書館　日本ヘルス

コミュニケーション学会誌 16(1) 6-20 2025年４月

12) 有賀悦子．がん領域の患者・市民参画（PPI）．シンポジウム 19 産官学で取り組む脳神経疾患の PPI-5．神経治療 2025，42（６）：S194.
13) 有賀悦子； がん研究における患者・市民参画．癌と化学療法 2025；52（11）：775-780
14) 有賀悦子．がん領域の患者・市民参画（PPI）．シンポジウム 19 産官学で取り組む脳神経疾患の PPI-5．第 43 回日本神経治療学会学術集会．熊本，11 月，2025 年．国内・口頭
15) 有賀悦子．がん研究の患者・市民参画：学びを結ぶ体系的カリキュラム開発．がん支持医療研究における患者・市民参画を広げるために．パネルディスカッション．第１０回日本サポーティブケア学会学術集会．和歌山，5 月，2025 年．国内・口頭
16) 医学教育における最近の変革と適正な評価．大久保由美子．日本医業経営コンサルタント協会講演会（東京)、2026年2月、国内、講演
17) 医学教育研究の基本を学ぶワークショップ．大久保由美子，藤倉輝道，林幹雄，菊川誠，宮地由佳．第57回日本医学教育学会大会（秋田)、2025年7月、国内、口演
18) 成績下位学生に対する共用試験CBTに向けての学生による学年間学修支援の取り組み．紺野久美子，堀田晶子，安達三美，飯塚眞由，河野肇，大久保由美子．第57回日本医学教育学会大会（秋田)、2025年7月、国内、ポスター
19) 早期臨床体験実習「エスコート実習」で学生は何を学びどう感じたか．堀田晶子，安達三美，磯尾紀子，紺野久美子，渡邊清高，大久保由美子．第57回日本医学教育学会大会（秋田)、2025年7月、国内、口演
20) 在学中の妊娠・出産・育児を希望する医学生の意識と現状．大久保由美子，堀田晶子，紺野久美子．第57回日本医学教育学会大会（秋田)、2025年7月、国内、口演
21) 医学生の臨床技能評価 mini-CEXおよび症例プレゼンテーション評価．大久保由美子．第36回医学教育指導者フォーラム（東京)、2025年7月、国内、口演
22) Revising Japan's insurance system and patient advocacy activities, Naomi Sakurai, Shinsuke Amano, Hiromi Todoroki, Yoko Matsumoto, Yoshiyuki Majima, Maiko Higuchi, Mina Katome, Ruri Kobayashi, Ayako Yago, Yuka Tsujimoto, Yuri Ito, AACR2026, 2026/04/24,海外、ポスター
23) がん患者支援者の協働を実現するための医療従事者向け教育・研修プログラム,佐々木治一郎,第63回日本癌治療学会(パシフィコ横浜),2025年10月16日，国内，ポスター
24) がん医療ネットワークナビゲーターに必要なコミュニケーションスキル，佐々木 治一郎,日本プライマリ・ケア連合学会学術大会16回教育講演４,オンデマンド,2025年6月,国内,口演
25) 本邦における子宮頸癌サバイバーのSubsequent Primary Cancer (SPC)リスク：３地域がん登録を統合した大規模コホート解析．佐藤美紀子、 阪口昌彦、金村政輝、森島敏隆、 宮城洋平、片山佳代子． 第3回婦人科がんサポーティブケア研究会（広島）、2025/11、国内、口頭.
26) You Tubeにおける複数コメント者の投稿先分析．堀田健弘、片山佳代子、扇原淳、徐桜晗、阪口昌彦．第84回日本公衆衛生学会総会（静岡）、2025/10、国内、口頭.
27) がん検診施設におけるがんサバイバーの第2がん検診に関する実態調査研究．中野千枝、佐藤美紀子、片山佳代子、阪口昌彦、藤井さと子、竹井淳子、宮下弓、熊倉泰久、小笠原智香． 第66回日本人間ドック・予防医療学会学術大会（京都）、2025/8、国内、口頭.
28) GISを援用した全国がん登録データの小地域別分析．草野邦明、片山佳代子、奥貫圭一．第77回日本人口学会（福岡）、2025/6、国内、口頭.
29) 群馬県における子宮頸がん罹患状況と地理的要因の分析．米持晃輔、関塚結菜、片山佳代子．日本がん登録協議会第34回学術集会（愛知）、2025/6、国内、口頭.

H．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書　籍　名	出版社名	出版地	出版年	ページ
渡邊清高ら	チーム医療における医療者の役割	医療コミュニケーション運営委員会	チームで学ぶ医療コミュニケーション	帝京大学出版会	東京	2025	3-16、47-55、91-115、213-232
片山佳代子	群馬大学 多職種人材育成のための医療安全教育センター(PSEC)	田中和美	THE LONDON PROTOCOL 2024 日本語版「臨床インシデントのシステム分析:ロンドン・プロトコル2024」	群馬大学	群馬県	2025	

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
渡邊清高、関順彦	がんロコモ対策	日本医師会雑誌	154(5)	491-494	2025
池谷のぞみ，酒井由紀子，渡邊清高，大林晃美，藤阪康司，彦田かな子，中山健夫	医療と生活をつなぐ場としての図書館	日本ヘルスコミュニケーション学会誌	16(1)	6-20	2025
Yumiko Okubo	Qualitative Analysis of Newspaper Articles to Standardize the Social Background of Simulated Patients: A Pilot Study on Caregiving.	Journal of Nippon Medical School	93、1	26-36	2026
Yumiko Okubo	Development of the Academic Harassment Tendency Scale for Science Academia	Journal of Academic Ethics	23	2487-2510	2025
Yumiko Okubo	Impact of Clinical Practice Restriction on Medical Students' Perceptions of Simulation Training: A Retrospective	Medical Science Educator	36	287-293	2025
大久保由美子	本学の早期臨床体験実習としての「エスコート実習」の意義と学修効果について	新しい医学教育の流れ	25、2	82-83	2025
大久保由美子	自動採点可能な診察自己学修ツール開発のための学修者のふるまい認識手法	計測自動制御学会論文集	61，10	471-478	2025
中野千枝、佐藤美紀子、片山佳代子、阪口昌彦、藤井さと子、竹井淳子、	健診施設における第二がん検診の実施状況と障壁ーがんサバイバーの予防医療に関する	日本人間ドック・予防医療学会誌	40巻4号	679-687	2025
Yinghan Xu, sakaguchi M, Katayama K, Qun Jin, Nishimura S, Ogihara	Sentiment and Topic Analysis of HPV Vaccine Discourse on Bilibili Using BERTopic	2025 IEEE Cyber Science and Technology Congress, CyberSci		690-695	2025

Mikiko Asai-Sato, Masahiko Sakaguchi, Seiki Kanemura, Toshitaka Morishima, Kei Kawana, Kayoko Katayama.	Subsequent primary cancer incidence in cervical cancer survivors: insights from a comprehensive cohort study utilizing combined Japanese population-based cancer registries.	J Gynecol Oncol	Jan;37(1):e12.		2026
有賀悦子	がん研究における患者・市民参画	癌と化学療法	52 (11)	775-780	2025
有賀悦子	がん領域の患者・市民参画(PPI). シンポジウム19 産官学で取り組む脳神経疾患のPPI-5.	神経治療	42(6)	S194	2025

【資料1】

令和7年　厚生労働科学研究費補助金　がん対策推進総合研究事業

がん対策における患者・市民参画を推進するための標準教育プログラムの開発と確立に関する研究（25EA0501）［下線部が追加箇所］

モジュール				カリキュラム		
タイトル (pre-start)	目標	タイトル (start up)	目標	領域 （2語）	カリキュラム・コード	資質・能力（コンピテンシー）
患者・市民参画ことはじめ	"患者・市民参画"を初めて聞く市民に向けたモジュールです。 興味をもつきっかけ作りが目標です。 カリキュラムはどれを適応させても構いません。	患者・市民参画するには （患者・市民参画概論）	患者・市民参画に取り組んでみたいという思いを高め、入り口に立つことを目指します。（さらに進んだ目標として、研究チームや会議体に参画し意見交換ができる）	参画	参画-1　興味	患者・市民参画の意義を理解し、自らの関心をもとに、参画の動機を高めることができる。
					参画-2　参画チャレンジと意見交換	患者・市民の参画にチャレンジし、建設的な意見交換ができる。
		がんを知ろう （腫瘍学・社会医学）	がんについて、自らのペースで知識を深めていきましょう。	がん	がん-1　腫瘍学	がん（腫瘍学）について、自ら学び知識を深めていくことができる。
					がん-2　社会医学	がんに関する社会医学について、自ら学び知識を深めていくことができる。
		がん研究ってどんなこと? （がん研究概論）	がん研究について、自分のペースで知識を深めていきましょう。	研究	研究-1　なぜ研究が必要なのか	なぜ研究が必要かを理解し、医療・医学と研究の関係について説明できる。
					研究-2　アウトラインと計画	研究を遂行するための研究構造（アウトライン）や目的、計画の立案方法について説明できる。
					研究-3　研究方法とデザイン	研究方法やデザインについて基本的な用語を理解し、質問や提案ができる。
					研究-4　データ管理と公表	研究データの管理、倫理、研究成果の公表と社会実装の意義について説明できる。
		医療統計に触れてみよう。 なぜ、必要? （医療統計・疫学）	身近な文章（ニュースや報告書）やがん研究論文で、医療統計や疫学が、どのように用いられているか体験してみましょう。	統計	統計-1　統計用語	医療統計に用いられる基本用語を知り、関心を持つことができる。
		科学的根拠が社会で活用されるまで （科学的根拠と医療情報）	がん研究が、医療や社会の中の意思決定にどのように活用されているか学びます。	EB	EB-1　科学的根拠（EBM）とガイドライン	科学的根拠がガイドライン等を通してどのように意思決定に活用されるかについて説明できる。
					EB-2　情報リテラシー	医療情報の正確性を見極める視点を学び、情報を主体的に収集、活用するために必要な姿勢を身につける。
		がん医療・研究・対策に関わる人が守らなければいけないこと、知っておきたいこと （がん医療に関する倫理・法規・制度）	医療や研究、がん対策に関わる人が守らなければいけない事柄として、倫理、利益相反、法規、制度について学びます。	EL	EL-1　がん医療の倫理	医療倫理・研究倫理、利益相反、個人情報保護について基本的な知識をもとに説明できる。
					EL-2　がんの関連法規・制度	がん医療や研究に関連する法・保険制度の概要を理解する。 がん対策基本法、薬機法、がん登録推進法、健康保険法（診療報酬、医療保険制度）、介護保険法、臨床研究法、倫理指針、健康増進法、労働安全衛生法、公的医療保険制度、高額療養費制度、患者申出療養制度等

【資料2】

e ラーニング追加

参画

- 参画ー１：興味【30 分】
- 参画－２：参画チャレンジと意見交換【49 分】
- 【新規】参画－２： 患者・市民参画の広がり

  目標：患者・市民参画が広がることによる、がん対策やがん研究の将来像を考え、その道筋を描くことを目指します。

がん

- がん－１：腫瘍学（肺がん）【37 分】（佐々木治一郎 先生）
- がん－１：腫瘍学（乳がん）【21 分】（佐治重衡 先生）
- がん－１：腫瘍学（胃がん）【22 分】（寺島雅典 先生）
- がん－１：腫瘍学（希少がん）【27 分】（川井章 先生）
- がん－１：腫瘍学（高齢者とがん）【32 分】（田村和夫 先生）
- がん－１：腫瘍学（AYA 世代とがん）【16 分】（清水千佳子 先生）
- 【新規】がん－１：腫瘍学（小児がん）

  松本　公一先生（国立成育医療センター）：小児がん、長期フォローアップ、移行期医療
- 【新規】がん－１：腫瘍学（がんゲノム医療）

  河野　隆志先生（国立がん研究センター）：がん遺伝子パネル検査、がんゲノム医療体制

- がん－２：社会医学（がん予防）【23 分】（井上真奈美 先生）
- がん－２：社会医学（がん検診）【33 分】（中山富雄 先生）
- がん－２：社会医学（サバイバーシップ）【22 分】（高橋都 先生）
  - がん－２：社会医学（がんと社会）【34 分】（後藤励 先生）
  - 【新規】がん－２：社会医学（診断された時からの緩和ケア）

    木澤義之先生（筑波大学）：がんと診断された時からの緩和ケア
  - 【新規】がん－２：社会医学（心のケア）

    秋月伸哉先生（東京都立駒込病院）：精神腫瘍学（サイコオンコロジー）
  - 【新規】がん－２：社会医学（支持療法）

e ラーニング追加

山本信之先生（和歌山県立医科大学）：がんの支持療法

- 【新規】がん－２：社会医学（がんリハビリテーション）

辻　哲也先生（慶應義塾大学）：がんリハビリテーション

- 【新規】がん－２：社会医学（アピアランスケア）

藤間勝子先生（国立がん研究センター）：がんのアピアランスケア

- 【新規】がん－２：社会医学（相談支援と情報提供）

渡邊清高（帝京大学）：相談支援と情報提供

研究

- 研究－１：なぜ研究が必要なのか【1 時間 11 分】（座談会）
- 研究－２：アウトラインと計画（研究の基本設計図と PICO･PECO）【22 分】（片山佳代子 先生）
- 研究－２：アウトラインと計画【25 分】（佐々木治一郎 先生）
- 研究－３：研究方法とデザイン（研究のデザインの基本）【29 分】（片山佳代子先生）
- 研究－３：研究方法とデザイン【26 分】（佐々木治一郎 先生）
- 研究－４：データ管理と公表【15 分】（佐野裕亮 先生）

統計

- 統計－１：統計用語【27 分】（柴田太朗先生）

EB

- EB－１：科学的根拠とガイドライン【11 分】（片野田耕太先生）
- EB－２：情報リテラシー【19 分】（渡邊清高）

EL

- EL－１：がん医療の倫理【28 分】（田代志門先生）
- EL－２：がん医療の関連法規【20 分】（松田智大先生）
- 【新規】EL－２：がん対策の評価

東尚弘先生（東京大学）：ＱＩ、患者体験調査

e ラーニング追加

- 【新規】EL－２：がん政策とロジックモデル
  埴岡健一先生（国際医療福祉大学）：ロジックモデル

【資料3】

プロジェクト紹介

1. 研究者一覧
2. みんなでつくる、学び合う患者・市民参画（PPI）のかたち
3. なにを学び、どう広げる？－カリキュラムの全体像－
4. 患者・市民参画でどう変わる？　カリキュラムにより期待される効果
5. 前身の研究班
6. お問い合わせはこちら

このウェブサイト「がん対策・がん研究　患者・市民参画　マナビの広場」は、以下の厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）の活動を発信するために作成しています。

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）「がん対策における患者・市民参画を推進するための標準教育プログラムの開発と確立に関する研究」（令和7年度より）
厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）「がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究」（令和4-6年度）
前身の研究班の紹介はこちら

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）「がん対策における患者・市民参画を推進するための標準教育プログラムの開発と確立に関する研究」（令和7年度より）

研究者一覧

（所属は令和７年４月時点）

研究代表者：

渡邊 清高（帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科）

研究分担者：

有賀 悦子（帝京大学医学部緩和医療学講座）

大久保 由美子（帝京大学医学部医学教育学講座）

片山 佳代子（群馬大学情報学部）

桜井 なおみ（キャンサー・ソリューションズ株式会社）

佐々木 治一郎（北里大学学医学部附属新世紀医療開発センター）

増田 昌人（琉球大学病院がんセンター）

研究協力者：

江口 英利（大阪大学大学院医学系研究科・消化器外科学１）

野田 真由美（支えあう会「α」）

樋口麻衣子（富山AYA世代がん患者会Colors）

藤田 直也（がん研究会　がん化学療法センター）

みんなでつくる、学び合う患者・市民参画（PPI）のかたち

たとえば、「有効で安全ながん治療が、全国で受けられるようになるといいな」「がんによる痛みや気持ちのつらさがなくなればいいのに」「がん検診をもっと地域で広めたい」「治療や療養の選択肢について、患者や当事者の声が届く仕組みをつくりたい」と感じたことはありませんか？
近年、がんに関する政策や研究、医療の現場においても、「患者さんや市民の方々の声を反映した取り組み」が求められるようになってきました。

がんについて、さまざまな施策を議論し検討する場である協議会（がん対策推進協議会など）では患者・市民の立場から委員が加わり、がんの予防、がん医療、がんとの共生、研究の基盤整備など、さまざまなテーマで「参画」が始まっています。こうした「参加」から「共創」へと進むためには、単に意見を伝える／聞くという関係性ではなく、患者・市民と医療者が互いの立場や専門性を尊重しながら学び合う機会が必要です。がん医療やがん研究における「患者・市民参画（PPI: Patient and Public Involvement）」の意義が広く認識されるようになってきました。しかし、PPIの理念を実践へとつなげるためには、患者・市民と医療者のそれぞれがその背景や方法を学び合う教育基盤が不可欠です。
本プロジェクトは、国のがん対策推進基本計画（第4期）など、国内外の患者・市民参画を推進する取り組みにもとづき、誰もが体系的に学べる標準教育カリキュラムの開発と社会実装を目指しています。

なにを学び、どう広げる？－カリキュラムの全体像－

教育プログラムは、以下のような構成で段階的に学びを深めていく設計されています。
参画・がん・研究…とコード化された学習モジュールを順番に修了することで、患者・市民として参画するときに必要な資質・能力（コンピテンシー）を段階的に獲得できる仕組みです。
カリキュラムの内容についてはこちら**から確認できます。**

カリキュラムに基づき作成された教育モジュール（Webラーニング、用語集など）を活用いただき、よりよい教育プログラムに向けてアンケート調査などを実施し、改善を繰り返していくことで、実効性の高いものを作り上げる作業をし

ています。

■ 基礎研修プログラム（誰でも参加可能）

用語集：がん対策・がん研究・がん医療、そして患者・市民参画に関する用語や疑問をやさしく解説

Webラーニング教材：いつでも・どこでも繰り返し学べるeラーニング形式

■ 専門研修プログラム（学術団体・支援団体・専門家と連携）

日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、日本癌学会などと連携し、各学会の患者・市民参画プログラムとカリキュラムを導入

患者・市民参画でどう変わる？　カリキュラムにより期待される効果

がん対策における患者・市民参画を推進する教育プログラムの開発と確立によって、次のような効果が期待されます。

・受講コード管理により学習目標を設定でき、ご自分のペースで体系的に患者・市民参画に必要な能力を修得できます。

・がん対策やがん研究の企画立案段階から参画できる患者・市民の育成につながります。

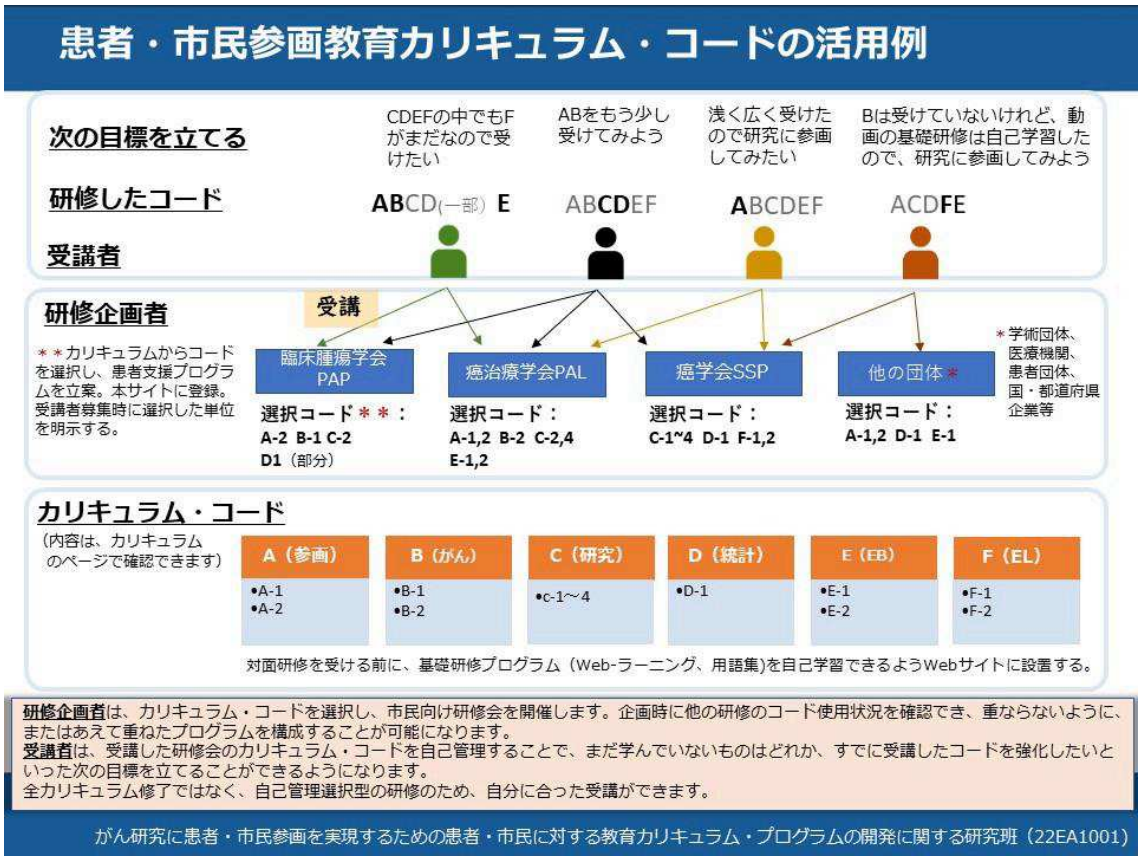
・学術団体や行政が、患者・市民向けプログラムを設計する際の教育モデルを提案します。

・教育内容・学習効果の可視化と評価指標を提案することにより、がん対策・研究への患者・市民参画のための教育内容、効果的な方法を明らかにします。

・Webラーニングやモデル研修会などを通じて、医療者・研究者と患者・市民、行政関係者の円滑な共働関係の形成に貢献します。

・がん対策、がん研究への患者・市民参画の推進により、安全で質の高い医療の実現と社会の福祉の向上に寄与します。

カリキュラムを例えば、A、B、C・・・と表現するならば、次のようなイメージで受講を修了することができるようになります。



カリキュラムの内容についてはこちらから確認できます。

今、カリキュラム案を作成し、アンケート調査などを実施し、改定を繰り返し、最終的に実効性があるものを作り上げる作業をしています。

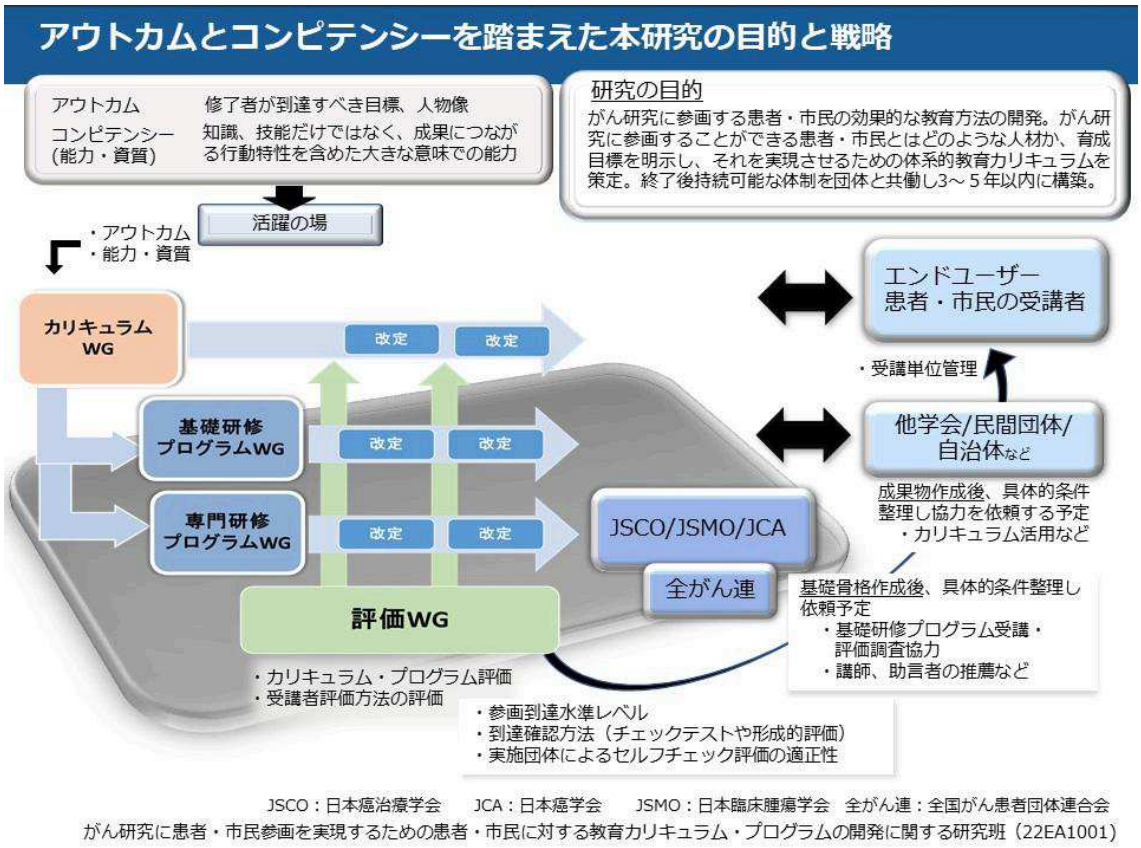
この研修には二つあります。

・基礎研修プログラム：

用語集、Webラーニング（繰り返し自己学習ができる）

・専門研修プログラム：

日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、日本癌学会の患者支援プログラムに協力頂き、カリキュラムを使ったプログラムを実施し、カリキュラムに漏れた項目がないか、難易度は適切かなど検証していきます。



この開発研究によって患者・市民参画教育カリキュラムを策定すると期待されることには、次のようなことがあります。

1. **患者・市民**らが、受講コード管理によって自己学習目標を立てながら、体系的に研修を受けることができ、がん研究に立案段階から参画できる**能力（コンピテンシー）を修得**することができる。
2. 教育カリキュラムを策定することで、多くの**患者・市民参画の研修を実施する団体**（学会など）において、どのような研修プログラムを設定すれば患者・市民にとって良い効果をもたらすか、**指標に**なる。
3. 教育カリキュラムの到達するレベルと獲得する能力（コンピテンシー）を評価することにより、患者・市民に対する**がん研究参画のための教育内容、効果的な方法を明らかに**することができる。
4. 研究に立案段階から参画できる患者・市民が増えることで、**がん研究者がリクルートしやすく**なる。
5. 模擬トレーニングなどのプログラムにより患者・市民はより実践的な能力を得ることが期待され、がん研究者との**円滑な共働関係**を形成することができる。
6. がん研究に患者・市民の声が反映されることで、患者視点のアウトカムの提案や患者のリクルートの適正化などが可能となり、広く**医療の質や社会の福祉の向上に寄与**する。

皆さんと共に、患者・市民参画を学ぶ環境を作っていきたいと思います。

どうぞ、仲間になってください。

そして、本サイトを活用していってください。

市民、患者の目線を大切にする日本のがん医療を応援していきましょう。

前身の研究班

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）「がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究」（令和4-6年度）

（所属は令和４年４月時点）

研究代表者：

有賀 悦子（帝京大学医学部緩和医療学講座）

研究分担者：

江口 英利（大阪大学大学院医学系研究科・消化器外科学１）

勝俣 範之（日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科）

三森 功士（九州大学病院）

大滝 純司（東京医科大学医学教育学分野）

渡邊 清高（帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科）

片山 佳代子（群馬大学情報学部）

片野田 耕太（国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策研究所）

桜井 なおみ（キャンサー・ソリューションズ株式会社）

研究協力者：

樋口麻衣子（富山AYA世代がん患者会Colors）

眞島 喜幸（パンキャンジャパン）

佐々木 治一郎（北里大学学医学部附属新世紀医療開発センター）

西森 久和（岡山大学病院血液・腫瘍内科）

山口 拓洋（東北大学大学院医学統計学分野）

お問い合わせはこちら

氏名

メールアドレス

件名

メッセージ本文 (任意)

送信

【資料4】

がん対策における患者・市民参画（PPI）推進に関する現状と教育ニーズに関する調査―

質問一覧

ご回答は以下の URL からインターネットでお願いできましたら幸甚ですが、紙の調査票での提出をご希望の場合は、調査実施委託機関までご連絡をお願いします。

アンケート回答画面 URL：https://

令和 7 年度厚生労働科学研究費補助金（がん政策研究事業）
がん対策における患者・市民参画を推進するための標準教育プログラムの開発と確立に関する研究

帝京大学医学部内科学講座　腫瘍内科
渡邊　清高

【調査実施委託機関】
一般社団法人 中央調査社
東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル

Q1. ご所属とご連絡先のご記入をお願いします。
※ご記入いただいた情報は、ご回答の確認やヒアリング調査にのみ使用し、研究終了後全て廃棄します。

都道府県名【必ず回答】

部署 【必ず回答】

ご担当者様名

電話番号【必ず回答】

メールアドレス(E-mail)【必ず回答】

Q2. 貴自治体には、がん対策に関する都道府県がん対策推進協議会はありますか。
※都道府県がん対策推進協議会とは、都道府県がん対策推進計画の策定、進捗管理等に関する検討会のことです。

1．ある
2．ない　→【7ページのQ13へお進みください。】
3．その他

Q3. がん対策に関する都道府県がん対策推進協議会の委員構成についてお伺いします。
協議会の委員は全部で何人ですか。

委員の合計人数 【必ず回答】
人(半角数字

Q4. がん対策に関する都道府県がん対策推進協議会委員において、以下の立場で参加している委員はいますか。【必ず回答】（複数選択）

①がん患者　→ 1．いる　2．いない　3．わからない
②家族・遺族　→ 1．いる　2．いない　3．わからない
③その他市民　→ 1．いる　2．いない　3．わからない

【Q4 で①がん患者について「2．いない」とご回答された方は、次ページへお進みください】

Q5. がん対策に関する都道府県がん対策推進協議会委員のうち、「がん患者」の立場で参加している委員について詳しくお伺いします。

「がん患者」の立場の委員の性別と年代、選考方法をご記入ください。

※人数については分かる範囲でのご回答で結構です。

①「がん患者」の立場の委員の合計人数 【必ず回答】

[ ] 人(半角数字)

②（その内）男性の委員

[ ] 人(半角数字)

③（その内）女性の委員

[ ] 人(半角数字)

④（その内）30 歳代以下の委員

[ ] 人(半角数字)

⑤（その内）40 歳代の委員

[ ] 人(半角数字)

⑥（その内）50 歳代の委員

[ ] 人(半角数字)

⑦（その内）60 歳代の委員

[ ] 人(半角数字)

⑧（その内）70 歳代以上の委員

[ ] 人(半角数字)

⑨「がん患者」の立場の委員の選考方法についてご記入ください。 【必ず回答】

※公募制、代表制、などその他具体的に

[ ]

【Q4 で②家族・遺族について「２．いない」とご回答された方は、次ページへお進みください】

Q6. がん対策に関する都道府県がん対策推進協議会委員のうち、「家族・遺族」の立場で参加している委員について詳しくお伺いします。

「家族・遺族」の立場の委員の性別と年代、選考方法をご記入ください。

※人数については分かる範囲でのご回答で結構です。

①「家族・遺族」の立場の委員の合計人数 【必ず回答】

[　　] 人(半角数字)

②（その内）男性の委員

[　　] 人(半角数字)

③（その内）女性の委員

[　　] 人(半角数字)

④（その内）30 歳代以下の委員

[　　] 人(半角数字)

⑤（その内）40 歳代の委員

[　　] 人(半角数字)

⑥（その内）50 歳代の委員

[　　] 人(半角数字)

⑦（その内）60 歳代の委員

[　　] 人(半角数字)

⑧（その内）70 歳代以上の委員

[　　] 人(半角数字)

⑨「家族・遺族」の立場の委員の選考方法についてご記入ください。 【必ず回答】

※公募制、代表制、などその他具体的に

[　　]

【Q4 で③その他市民について「２．いない」とご回答された方は、次ページへお進みください】

Q7．がん対策に関する都道府県がん対策推進協議会委員のうち、「その他市民」の立場で参加している委員について詳しくお伺いします。

「その他市民」の立場の委員の性別と年代、選考方法をご記入ください。

※人数については分かる範囲でのご回答で結構です。

①「その他市民」の立場の委員の合計人数 【必ず回答】

[　　] 人(半角数字)

②（その内）男性の委員

[　　] 人(半角数字)

③（その内）女性の委員

[　　] 人(半角数字)

④（その内）30 歳代以下の委員

[　　] 人(半角数字)

⑤（その内）40 歳代の委員

[　　] 人(半角数字)

⑥（その内）50 歳代の委員

[　　] 人(半角数字)

⑦（その内）60 歳代の委員

[　　] 人(半角数字)

⑧（その内）70 歳代以上の委員

[　　] 人(半角数字)

⑨「その他市民」の立場の委員の選考方法についてご記入ください。 【必ず回答】

※公募制、代表制、などその他具体的に

[　　]

【Q4 で①がん患者について「2．いない」とご回答された方は、次ページ Q13 へお進みください】

Q8. 患者委員の選考にあたって、選考方針を公開していますか。【必ず回答】

1．はい
2．いいえ
3．その他

Q9. 患者委員の選考にあたっての選考方針について、公募要項、会議開催要綱等に記載されている場合は、その内容を具体的にご記入ください。

選考方針についてご記入ください。

※もし公募要項や、会議開催要項等をホームページで公開されている場合は、URL をお教えください。

Q10. 患者委員の任期についてお伺いします。患者委員が再任されることはありますか。【必ず回答】

1．ある
2．ない
3．その他

Q11. 患者委員の任期についてお伺いします。患者委員の継続年数に上限を設けていますか。【必ず回答】

1．設けている
2．設けていない
3．その他

Q12. 患者委員に対して、がん対策（がん対策推進計画等）の説明をしていますか。【必ず回答】

1．説明している
2．説明していない
3．その他

Q13. 患者・市民参画を推進するうえで、自治体として患者等に対する教育を必要と感じていますか。

【必ず回答】

1．とても必要だと感じる
2．必要だと感じる
3．どちらともいえない
4．あまり必要だとは感じない
5．全く必要だとは感じない
6．その他

Q14. がん対策における患者・市民参画を推進する教育プログラムを必要と感じていますか。

【必ず回答】

1．とても必要だと感じる
2．必要だと感じる
3．どちらともいえない
4．あまり必要だとは感じない
5．全く必要だとは感じない
6．その他

Q15. 患者・市民参画を推進する教育プログラムについて、都道府県等への情報提供が必要と感じていますか。 【必ず回答】

1．とても必要だと感じる
2．必要だと感じる
3．どちらともいえない
4．あまり必要だとは感じない
5．全く必要だとは感じない
6．その他

Q16. 患者・市民参画を推進する教育プログラムについて、どのような研修形態が望ましいですか。

あてはまるものを全てお選びください。（複数選択） 【必ず回答】

1．e ラーニング
2．集合研修
3．ハイブリッド
4．ワークショップ形式
5．その他

Q17. 患者・市民参画の推進に向けた計画・人材養成方針があればご記入ください。

（自由記述）

Q18. 患者・市民が参画できる教育プログラムについての希望がありましたら、ご記入ください。

コンテンツについて

教育手法について

質保証について

その他

Q19. 患者・市民参画推進に向けて、自治体として、どのような支援機能を担うべきと考えますか。

（自由記述）

Q20. 患者・市民参画推進に向けて自治体として課題と考えていることはありますか。

（例：なり手がいないなど）

Q21. 本調査をもとに、ヒアリング（訪問またはオンライン）を行うことを計画しております。ご協力いただけますでしょうか。（あてはまるもの全て） 【必ず回答】

1．訪問でのヒアリングに協力してもよい
2．オンラインでのヒアリングに協力してもよい
3．その他
4．ヒアリングには協力できない→【調査は終了です。ご協力ありがとうございました。】

Q22. ヒアリング調査についてご依頼させて頂く際は、アンケートの最初に入力頂いたご連絡先にメールか電話でご連絡さしあげます。
ご連絡方法のご希望や、ヒアリング調査のご連絡先に変更がございましたら、以下にご記入をお願いいたします。

ヒアリング調査のご連絡に関するご要望

このたびは調査にご協力くださいましてありがとうございました。

【資料5】

資料 1：アンケート調査票

0.調査研究への協力同意確認

「がん対策・がん研究における患者・市民参画に関する意識調査」ご協力のお願い

会員の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

がん対策・がん研究における患者・市民参画の取り組みとして、会員に向けてアンケート調査をさせていただきたくお願いいたします。この調査は、患者・市民参画の推進に取り組んできた学会において、患者・市民参画についての会員の皆さまの意識や周知度を測り、がん対策・がん研究における『患者・市民参画』を推進するための取り組みを推進するための基礎となる資料を収集することを目的としています。

本調査結果は集計した後、学術集会におけるシンポジウム等での報告、および厚労科学研究報告書、がん対策に関する検討会等へ報告させていただく予定です。本調査の回答には 10 分から 15 分ほどかかります。本調査への参加は自由意思に基づきご判断ください。なお、回答の途中であっても参加者の自由意思で中止できます。研究の不参加または回答を途中で中断しても不利益は生じません。特段の身体的・心理的負担は想定されませんが、個人的意見の記載に不安を覚える可能性があるため、回答の中止については自由にご判断ください。回答はオンラインフォームにて実施します。通信環境やデータの送受信に当たってはご自身の通信環境にてご対応くださいますようお願いいたします。本調査は無記名で、個人を特定できる情報は収集いたしません。また、調査に関する倫理審査は帝京大学医学系研究倫理委員会の承認を受けて実施しております。（帝代 25-006-2 号　2025 年 12 月承認）なお、本研究における研究参加者の利益相反状況は、帝京大学板橋キャンパス利益相反管理委員会によって管理されており、群馬大学における利益相反管理は、群馬大学利益相反マネジメント委員会によって管理されます。

本調査は研究班の委託を受けた一般社団法人 中央調査社が実施します。

一般社団法人 中央調査社は、（一財）日本情報経済社会推進協会の「プライバシーマーク」の認定を受けております。統計調査の実施にあたっては、個人情報保護方針にしたがい、情報の管理を徹底いたします。また、本調査で用いているマクロミル社のアンケートフォーム（QUESTANT）は、通信の暗号化（HTTPS）と国内サーバーでのデータ管理により、適切なセキュリティ対策を行っています。

中央調査社の個人情報保護方針はこちらをご覧ください。

https://www.crs.or.jp/privacy/

ご多忙の中誠に恐縮ですが何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。

◯ 回答期間：2026 年 2 月 26 日（木）～5 月 15 日（金）
◯ 回答方法：下記リンクよりご回答ください
https://questant.jp/q/hcp-cancerPPI
※以前の研究班で実施した調査にご協力いただき、これまでの調査と回答が変わらない方も、ご回答をお願いします。
※複数の学会の会員の場合、本調査依頼が複数回届くことがあります。回答はお一人 1 回でお願いいたします。

厚生労働科学研究費補助金（がん政策研究事業）がん対策における患者・市民参画を推進するための標準教育プログラムの開発と確立に関する研究（代表：渡邊清高）

〇本調査に関するお問い合わせ
厚生労働科学研究費補助金（がん政策研究事業）がん対策における患者・市民参画を推進するための標準教育プログラムの開発と確立に関する研究（代表：渡邊清高　帝京大学医学部内科学講座　腫瘍内科　教授）
E-mail：ppi-can@teikyo-u.ac.jp

〇アンケートの回答方法や画面操作について（調査実施委託機関）
一般社団法人中央調査社（担当：調査部 小松）
フリーダイヤル：０１２０(４８)５３５１（受付時間：平日 10：00～18：00）

本アンケートでは、回答を途中で保存することができません。
誤って画面を閉じたり、通信が切断された場合、入力内容が失われることがありますのでご注意ください。

上記をご確認いただき、同意いただける場合には、「次へ」をクリック／タップしてください。同意いただけない場合には、回答を終了してください。

0. 所属学会【複数回答】
□日本癌治療学会
□日本癌学会
□日本臨床腫瘍学会
□日本緩和医療学会
□日本サイコオンコロジー学会
□日本がんサポーティブケア学会
□日本乳癌学会
□日本肺癌学会
□日本胃癌学会
□大腸癌研究会
□日本膵臓学会
□日本がん看護学会

1. 年代【単回答】
○20 代　○30 代 ○40 代　○50 代　○60 代以上　○答えたくない
2. 性別【単回答】
○男性　○女性　○答えたくない　○その他（　　）

3. 職種／属性【単回答】
※複数の資格をお持ちの方は、主となる職を 1 つお選びください。【必ず回答】
○医師　○歯科医師 ○看護師／保健師／助産師　○薬剤師　○ソーシャルワーカー　○リハビリ関連職種　○心理職　○栄養士　○介護福祉士　○研究者　○患者・当事者　○行政　○学生　○その他
4. 所属診療科【単回答】
※複数の診療科に所属されている場合は、主となる診療科を 1 つお選びください。【必ず回答】
○内科 ○外科　○産婦人科　○放射線科 ○ 泌尿器科　○整形外科　○口腔外科　○眼科　○頭頸部外科　○皮膚科 ○ 小児科　○麻酔科　○脳神経外科　○形成外科　○基礎医学 ○ 臨床病理　○精神神経科　○緩和医療科　○薬学　○看護学　○その他　○診療科に属していない

5. 医療者としての経験年数をお答えください。【単回答】
○5 年未満 ○5 年～10 年未満 ○10 年～15 年未満 ○15 年～20 年未満 ○20 年～25 年未満 ○25 年～30 年未満　○30 年以上　○その他　○医療者ではない

6.「患者・市民参画」（PPI）を聞いたことがありますか。【単回答】
〇はい　〇いいえ
6-1. 6. で「はい」と回答いただいた方にお伺いします。どんな場面で「患者・市民参画(PPI)」という言葉を聞きましたか。【自由記述】
PPI とは Patient and Public Involvement の略で、患者・市民参画を意味します。
「患者やその家族、市民の方々の経験や知見・想いを積極的に将来の治療や ケアの研究開発、医療の運営などのために活かしていこうとする取り組み」を言います。（PPI-Japan ホームページより抜粋）一つの事柄の“計画の最初”から“普及啓発”までの全期間において、医療者や専門家に患者・市民がパートナーとして加わることを参画と言い、参加より密接な関係を指します。（＊）

7.「患者・市民参画」（PPI）について知っていましたか。【単回答】
〇知らなかった 〇言葉は知っている 〇言葉は知っているし、どのようなものか理解もしている
８．第 4 期がん対策推進基本計画：これらを支える基盤に『患者・市民参画の推進』が国民本位のがん対策を推進する観点から新規で追加されたことを知っていましたか？【単回答】
〇知っている 〇知らなかった
９．「患者・市民参画」はがん医療において、どのような場面に"活用"されるとよいと思いますか。【複数回答】
□がん研究（医療開発研究）
□がん研究（社会疫学研究）
□創薬事業
□国や都道府県の医療政策に関する会議
□ガイドライン作成
□医学教育の運営に関する会議（模擬患者は除く）
□学会等の団体におけるがん医療に関する広報活動
□その他
(注意：参加（被検者、意見を求める程度の関わり、ゲスト的な関わり）や事後での関わりではなく、“参画”する（＊）ということを想定して回答ください。）
９－1．9．で「その他」と回答された方は具体的に【自由記述】
10. 患者・市民参画は「がん対策」においてどのような場面に活用されるとよいと思いますか？【複数回答】
□がん予防の推進
□がん検診の推進
□患者向けガイドライン作成
□臨床研究・治験の推進

□がん教育・啓発活動
□情報提供・相談支援の仕組みづくり
□緩和ケアの普及
□療養生活支援の体制整備
□国や都道府県のがん対策に関する会議
□その他
10－1．10．で「その他」と回答された方は具体的に【自由記述】

11．患者や市民が参画した事業（含む研究）を"経験"したことはありますか
①がん研究（医療開発研究）
○参加経験あり ○参加経験なし
②がん研究（社会疫学研究）
○参加経験あり ○参加経験なし
③創薬事業
○参加経験あり ○参加経験なし
④国や都道府県の医療政策に関する会議
○参加経験あり ○参加経験なし
⑤ガイドライン作成
○参加経験あり ○参加経験なし
⑥医学教育の運営に関する会議（模擬患者は除く）
○参加経験あり ○参加経験なし
⑦学会等の団体におけるがん医療に関する広報活動
○参加経験あり ○参加経験なし
⑧その他【自由記述】
⑨経験なし
○経験なし

11．で「経験あり」と回答した方にお伺いします
12．患者・市民参画を経験してよかったことはどのようなことですか【自由記述】
13．患者・市民参画を経験して困ったことはどのようなことですか【自由記述】

11．で「経験なし」と回答した方にお伺いします
14．患者・市民参画の導入の経験がない理由はどのようなことでしょうか。【複数回答】
□患者・市民参画という取り組み自体知らなかったから
□患者・市民参画のメリットがよくわからないから

□患者・市民とは距離を保つべきだと思っているから
□興味はあるが、どのようにすればよいかわからなかったから
□患者・市民を参画させるための相談窓口がわからない
□どのような患者・市民に依頼すればよいかわからない
□地域に患者団体がない/参画してくれる患者や市民が身近にいなかったから
□患者・市民に研究内容を説明するのが難しいから
□患者・市民を参画させた時、研究内容が漏れてしまうのではないか心配だから
□患者・市民への謝金をどのようにすればよいかわからないから
□その他
14. で「その他」と回答された方は具体的に【自由記述】

15. 患者・市民参画について、学会（委員会）からどのような支援があるとよいと思いますか。【複数回答】
□参画する患者・市民の紹介
□患者・市民に対する教育研修
□医療者に対する教育研修
□参画における全般的な相談
□国への働きかけ
□その他
15. で国への働きかけと回答された方は具体的に【自由記述】
15. でその他と回答された方は具体的に【自由記述】
16. 患者・市民参画について、自由にご意見をお書きください【自由記述】

【資料6】

カリキュラム・コードを付与して行われたセミナー・研修会一覧

開催日	企画の内容	主催	カリキュラム・コード
2025 年 4 月 18 日	がん研究における「患者・市民参画：PPI」について学ぶ	日本癌治療学会 ファイザー医学教育助成金「がん患者のためのチーム医療・地域医療連携の推進に対する取り組み」による研究助成プログラム『がん医療に特化した PPI 促進のための医療者教育プログラム開発研究』グループ	参画-1, 2 研究-1-3 EB-1 EL-1
2025 年 9 月 25～27 日	第 84 回日本癌学会学術総会　SSP プログラム	第 84 回日本癌学会学術総会	参画-1, 2 がん-1 研究-1
2025 年 10 月 16 日～18 日	第 63 回日本癌治療学会学術集会 がん患者・支援者プログラム	第 63 回日本癌治療学会学術集会	参画-1, 2 がん-1, 2 研究-1-4 EB-1, 2 EL-1, 2
2025 年 11 月 6 日～8 日	第 66 回日本肺癌学会学術集会　PAP（ペイシェント・アドボケイト・プログラム）	第 66 回日本肺癌学会学術集会	参画-2 がん-1, 2 研究-1-3 EB-1
2025 年 11 月 27 日	臨床試験に関する講習会「がん研究と患者・市民参画（PPI）」	群馬大学医学部附属病院	参画-1, 2
2026 年 1 月 24～25 日	FFJCP2026 医療革命と患者のエンパワーメント：2030 年を見据えた患者共創の新時代へ	一般社団法人　日本がん患者フォーラム FFJCP2026	がん-2 研究-2, 3
2026 年 2 月 21	日本がん看護学会「患者・	第 40 回　日本がん	がん-1, 2

～22 日	家族参画プログラム」	看護学会学術集会	
2026 年 3 月 26 ～28 日	第 23 回臨床腫瘍学会学術集会 ペイシェント・アドボケイト・プログラム	第 23 回臨床腫瘍学会学術集会	参画-1, 2 がん-1, 2 研究-1-4 EB-1, 2 EL-1, 2





JSCO meeting
オンライン抄録アプリ

ホーム
会長挨拶
開催概要
日程表・プログラム
演題募集要項
JSCO"Frontier"演題登録
アンコール演題登録
倫理指針
発表時の利益相反の開示
参加登録
参加者の皆様へ

がん患者・支援者プログラム

TOP > がん患者・支援者プログラム

第６３回学術集会「がん患者・支援者プログラム」への応募にあたっては、以下の内容をご確認の上ご応募いただきますようお願い申し上げます。

1. 大会長挨拶
2. 開催概要（日時、場所、会長、学会テーマ）
3. はじめに
4. 本プログラムの目的
5. 応募期間
6. 応募資格
7. 参加タイプ
8. 助成金・参加登録費について
9. 参加プログラムについて
10. ミニポスターについて
11. ポスターについて
12. PALプログラム応募方法
13. 選考について
14. 日本癌治療学会　社会連携・PAL委員会　患者連携・PALプログラムWG
15. 問合せ先

当日のご案内・資料一覧

9. プログラム

プログラム　※都合により本学術集会のプログラム確定後に、プログラムや時間が変更となる場合もございますので、予めご了承ください。

10月16日（木）		
オリエンテーション1	8:00～8:25	
オリエンテーション2	11：30～11：55	
PALセミナー1	12:20～13:00	**がん治療における歯科医師の役割**　コード：がん-1 **～がん患者の治療と生活を口腔から支える～** 上野尚雄先生（国立がん研究センター中央病院　歯科医長） がん治療と歯科との関わり、治療開始前から治療中、治療後の口腔トラブルや予防管理の重要性、地域歯科医との連携体制の実際を学び、今後の支援のあり方を考え理解を深めましょう。
PALセミナー2	13:20～14:00	**がん登録/疫学からみたがん対策**　コード：EL-2 **～がん登録推進法施行10年を迎えて～** 伊藤ゆり先生（大阪医科薬科大学　医学部　医療統計学研究室　特別職務担当教員（教授）） がん登録推進法施行から１０年が経ち、患者の長期的な追跡からその成果や課題とともに治療計画の立案や患者・家族の意思決定への活用など今後の可能性について考えます。
ワークショップ1	14:20～15:50	**ラウンドテーブルディスカッション 模擬倫理審査委員会** コード：研究-1～4 佐々木治一郎先生（北里大学医学部附属新世紀医療開発センター・横断的医療領域開発部門臨床腫瘍学　教授） 全田貞幹先生（国立がん研究センター先端医療開発センター　粒子線医学開発分野） 研究への参画の一つに、研究倫理審査委員会等への委員としての出席があります。ここでは研究計画書の見方を学習した後に、模擬倫理審査委員会に市民・患者委員として参加することで、研究計画に対して質問したり意見を言ったりするという体験をします。この体験は、臨床研究そのものの理解を深めるだけでなく、なぜ研究に市民・患者の意見が必要なのかを知る良い機会になるでしょう。
ポスター1	16:10～17:10	**ミニポスター交流会**　コード：参画1 PAL参加者全員の活動紹介です。参加者同士が互いの活動を知り、連携やPPIについて話しあう交流会です。医療者や研究者との協働のきっかけにもしていただけます。
10月17日（金）		
オリエンテーション3	8:00～8:25	
オリエンテーション4	11:30～11:55	
PALセミナー3	12:20～13:00	**病院における倫理コンサルテーションの役割**　コード：EL-1 竹下　啓先生 （東海大学医学部医学科基盤診療学系医療倫理学領域　学科長 東海大学医学部附属病院　治験・臨床研究センター　所長） 日ごろ目にすることのない、病院における倫理コンサルテーションの取り組みについて知り、私たちの活動に活かせることを共に考えましょう。
PALセミナー4	13:20～14:00	**がん治療のあとの健康管理～私たちはどう動く？～**　コード：がん-2 高橋　都先生（NPO法人日本がんサバイバーシップネットワーク 代表理事） 治療の進歩により、がんと共に生活するサバイバーには、長期・晩期合併症、再発・二次がん、がん以外の併存疾患など、特有の健康問題があります。がん専門医と地域の医療者との連携も、課題満載です。がん経験者は、治療後のウェルビーイング維持にむけてどう動けばいいでしょう。また、今、困りごとに直面する仲間たちを、どう支援できるでしょう。困りごとを拾い出しながら、ご一緒に考えましょう。
ワークショップ2	14:30～16:00	**アンケートを学ぶステップ２ 患者支援活動に活かすために** コード：参画-2, 研究-3, EB-2, EL-1（予定） 片山　佳代子先生（群馬大学情報学研究科准教授/国立がん研究センターがん対策研究所） 昨年スタートした新しいワークショップ。第１回目を振り返りながらより具体的な課題に取り組みます。アンケート調査の良し悪しで実は結果が大きく変わります。だからこそ基本的事項を学び、患者支援活動の客観的評価や、患者・家族のニーズをどのように拾い上げていくか、調査項目の立て方や集計方法などを学び、地域発の患者・市民参画へ繋げる調査方法について学びましょう。
10月18日（土）		
オリエンテーション5	8:00～8:25	
ポスター2	10:00～11:30	**ポスターセッション**　コード：研究-4, 参画-2 抄録が採択されたポスターを、テーマごとに順次発表していただきます。発表の後に質疑応答の時間を設け、意見交換と交流をはかります。さらに、PAL意見交換会の議論へとつなげていきます。ポスター賞３演題の発表もあります。
ワークショップ3	11:50～13:00	**ポスター貸表彰式+PAL意見交換会** 「みんなの活動から学び、活かす、ポスター発表番外編～共感するポスターに投票し、同じテーマの仲間と語り合おう～」 初の試みとして、気になるポスターを投票で選び、選ばれたポスターのテーマごとに集まり意見を交わしながら活動に活かせる学びやヒントを共有し、参加者とのつながりを深めましょう。

※PALセミナー１・３およびワークショップ３では、お弁当をご用意しております。

・PAL関連プログラム
社会連携・PAL委員会企画シンポジウム　10月17日（金）10:00～11:30（予定）
患者連携・PALプログラムWG企画シンポジウム　10月18日（土）13:40～15:10（予定）

公式SNS
WEB視聴のご案内 New!
オンライン抄録 New!
HOME
学術会長挨拶
開催概要
組織委員
プログラム
Meet the Editor
Run&Walk in Kanazawa 2025
ワークショップ
Academia Meets Drug Discovery
市民向け啓発プロジェクト
「delete C」との共同企画
おもてなし企画のご案内 New!
参加登録
共催セミナー
シンポジウム企画募集

サバイバー・科学者 プログラム(略称 SSPプログラム)

日時

2025年9月25日（木）～ 27日（土）

会場

参加者

ANAクラウンプラザホテル金沢
〒920-8518 石川県金沢市昭和町16-3
※ 今後の感染状況により、開催方法をWEB開催へと変更する場合がございますこと、ご了承ください。

聴講者

オンライン会場

参加費

無料（現地参加者には旅費交通費の助成があります）

目的

がん患者や家族を支援する団体運営者または個人が、日本癌学会学術総会への参加を通じてがん研究に関する理解を深めることで、がん研究に対してがん患者や家族の立場から参画する「リサーチ・アドボケート」が養成されること。また、リサーチ・アドボケートとがん研究者が協働してがん研究の推進を図ることで、がん医療の向上に寄与すること。

概要

SSP プログラム参加者は第84回日本癌学会学術総会において、SSP プログラムの受講、プログラムセッションの聴講、ポスターの閲覧、並びにあらかじめ指定されたテーマによるポスター掲示・発表ができます。また、学術総会参加費の免除、学術総会参加に伴う旅費交通費の助成が行われるとともに、プログラム修了者には修了証が授与されます。

Patient Advocate Program
（ペイシェント・アドボケイト・プログラム）

第 66 回日本肺癌学会学術集会では，肺癌医療の進歩を多くの方に伝え，患者・市民・社会に開かれた学術集会となるよう，昨年に引き続き，患者・家族・一般の方々がご参加いただける患者・家族向けプログラムを開催いたします．

本会での患者・家族向けプログラムは現地開催に加え、ライブ配信、オンデマンド配信を行います（一部セッションを除く）．

ご参加いただくには事前参加登録が必要です．当日登録は行っておりません．

■開催日：2025 年 11 月 6 日（木）～11 月 7 日（土）
■会　場：PAP 会場（東京国際フォーラム　G 棟 4F　G409）

11 月 6 日(木)			
9:00～9:10	オリエンテーション		
9:10～9:20	講演 1	第 66 回日本肺癌学会学術集会の紹介	髙橋　和久（第 66 回日本肺癌学会学術集会会長）
9:20～9:50	講演 2	肺がんの診断（病理と病期）	清水　秀文（JCHO 東京新宿メディカルセンター）
9:50～10:20	講演 3	肺がんの治療総論（治療方針決定方法）	青野ひろみ（東京警察病院）
10:30～11:20	講演 4	手術療法（縮小手術や周術期薬物療法含む）	鈴木　健司（順天堂大学大学院医学研究科呼吸器外科学）
11:30～12:20	講演 5	放射線療法（薬物療法との併用も含む）	岡野奈緒子（順天堂大学医学部附属練馬病院放射線科）
13:50～14:05	講演 6	日本肺がん患者連絡会結成 10 周年記念講演	大西　幸次（日本肺がん患者連絡会 理事長）
14:05～15:05	講演 7	トピック（ガイドラインに新規収載されたもの）	河内　勇人（京都府立医科大学大学院医学研究科呼吸器内科学）
15:15～16:15	講演 8	患者の疑問にとことん答えます（Day1）	司会：大西　幸次、三宅　房世
16:30～	患者交流会		

11 月 7 日(金)			
9:00～9:10	オリエンテーション		
9:10～10:00	講演 9	緩和ケアの中身を知ろう	佐藤　崇（北里大学）
10:10～11:00	講演 10	分子標的治療薬	泉　大樹（国立がん研究センター東病院呼吸器内科）
11:10～12:00	講演 11	免疫チェックポイント阻害薬	谷崎　潤子（近畿大学）
12:15～13:05	ランチョンセミナー　共催：日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社		
13:30～13:40	講演 12	理事長挨拶　肺癌学会の考える PAP	山本　信之（日本肺癌学会 理事長）
13:40～14:00	講演 13	がん治療による経済毒性	清水　公一（社会保険労務士事務所 Cancer Work-Life Balance）
14:00～14:20	講演 14	高額療養費制度の問題と学会の対応	佐々木治一郎（北里大学医学部附属新世紀医療開発センター）
14:30～16:20	講演 15	医療経済に関するパネル討論	佐々木治一郎（北里大学医学部附属新世紀医療開発センター）
16:30～17:30	講演 16	患者の疑問にとことん答えます（Day2）	司会：大西　幸次、三宅　房世

11 月 8 日(土)			
9:00～9:10	オリエンテーション		
9:10～10:00	講演 17	トピック（二重特異性抗体薬、ADC など）	加藤　晃史（東京都立駒込病院）
10:10～11:00	講演 18	肺がんの支持療法	剱持　喜之（公益社団法人北海道勤労者医療協会 勤医協中央病院 呼吸器内科）
11:10～12:00	講演 19	意思決定の方法を深掘りします	守田　亮（秋田厚生医療センター）
13:00～14:50	講演 20	参加型プログラム（臨床試験の説明・同意体験）	剱持　喜之（公益社団法人北海道勤労者医療協会 勤医協中央病院 呼吸器内科）
15:00～16:00	講演 21	患者の疑問にとことん答えます（Day3）	司会：大西　幸次、三宅　房世
16:00～16:15	閉会セッション（Best of PAP2025）		
16:15～	閉会挨拶		赤松　弘朗（第 67 回日本肺癌学会学術集会事務局）

第40回 The 40th Annual Conference of the Japanese Society of Cancer Nursing
日本がん看護学会学術集会

患者・家族参画プログラム

患者・家族参画オリジナルプログラム

オリジナルプログラム1

看護レンジャー　～その悩み私たちに任せてください！～

登壇者	淺野　耕太 （京都第二赤十字病院 がん看護専門看護師）
	大内　紗也子 （京都大学医学部附属病院 がん看護専門看護師）
	高見　陽子 （済生会吹田病院 がん看護専門看護師）
	田中　寿江 （大阪大学医学部附属病院 皮膚・排泄ケア認定看護師）
	山本　ひとみ （シオン訪問看護ステーション 訪問看護認定看護師）
司会	桜井　なおみ （全国がん患者団体連合会）
	轟　浩美 （全国がん患者団体連合会）
日時	2026年2月21日(土)12:00～13:05
会場	第6会場(大阪府立国際会議場 10階 会議室1004)

開催方法	現地開催
企画意図	専門看護師(CNS)・認定看護師(CN)が、それぞれの役割や活動について紹介します。 患者・家族が体験した気がかり・困りごとに関して看護師がどのようなケアを提供できるのかを回答します。 対話を通して、がん体験者(患者・家族)と看護師が相互理解を深める機会としたいと考えています。 昼食を食べながら参加可能です。

オリジナルプログラム2

知っておきたい！大阪府におけるがん対策の取り組み

登壇者	山 根　　康 子 （大阪国際がんセンター　大阪府がん診療連携協議会がん看護部会）
	笹 田　　友 恵 （NPO法人 つながりひろば）
司　　会	天 野　　慎 介 （全国がん患者団体連合会）
	濱 本　　満 紀 （NPO法人がんと共に生きる会）
日　　時	2026年2月22日(日)12:05～13:05
会　　場	第6会場(大阪府立国際会議場 10階 会議室1004)
開催方法	現地開催
企画意図	大阪府におけるがん対策推進計画、大阪府がん診療連携協議会の活動、その他がんに関する取り組みを紹介します。 大阪府が病院とは違った環境として設置した「大阪府がん患者サポートセンター」の活動、利用者の声などを紹介します。 がん患者・家族の支援などに関して意見交換し、対話を通して、がん体験者と看護師が相互理解・相互交流を深める機会としたいと考えています。 昼食を食べながら参加可能です。

	ーム内の役割、夜間の病棟の様子や患者さんへの対応、そして生活を支える看護のやりがいや喜びについてお話しします。昼夜を問わず病院の24時間を支える看護のリアル、普段はなかなか見えない裏側を知るチャンスです。最後には、ナースの仕事について皆さんが抱く疑問や質問にできる限りお答えする時間も設けます。 看護という仕事の魅力をより深く理解し、次世代を担う高校生・中学生のみなさんにとって、未来の職業選択の幅を広げるきっかけになればと思います。

社会連携委員会企画　市民公開講座

がん患者さん・ご家族のための自然災害への備えと発生時の対応

講　　師	菅原　加奈子 （宮城大学看護学群成人看護学領域 がん看護専門看護師）
	濱 本　　千 春 （YMCA訪問看護ステーション・ピース所長 がん看護専門看護師）
	桜井　なおみ （全国がん患者団体連合会）
	濱 本　　満 紀 （NPO法人がんとともに生きる会）
座　　長	大内　紗也子 （社会連携委員会委員）
	轟　　浩　美 （全国がん患者団体連合会）
日　　時	2026年2月22日（日）14:30～15:50
会　　場	第12会場（大阪府立国際会議場 3階 イベントホールE）
開催方法	現地開催

企画意図



社会連携委員では、市民公開講座を開催いたします。
今年の市民公開講座のテーマは「がん患者さん・ご家族のための自然災害への備えと発生時の対応」です。毎年、日本各地で、地震や豪雨など、様々な自然災害が起きています。誰もが自然災害に遭遇するリスクを考える必要があると言えるでしょう。自然災害が発生した時に、がん治療・在宅医療などを受けているがん患者とご家族にどのような影響が及ぼされるのか(医療支援、薬剤の管理、避難所における環境の整備など)、そして、普段からできる備え、災害発生時の対応について、過去の災害時看護の経験を踏まえて、病院、訪問看護の立場からお話いただきます。また、がん体験者が実際に災害現場に支援した経験から、自然災害に対する備えや対応などについてお話いただきます。
市民、がん体験者、医療者が共に、自然災害に対して普段からできる備えと災害発生時の対応について学ぶ機会としたいと思います。

主催：一般社団法人 日本がん看護学会

運営事務局
〒550-0001 大阪市西区土佐堀1丁目4番8号 日栄ビル703A　あゆみコーポレーション内
TEL. 06-6131-6605　FAX.06-6441-2055
Mail : jscn40@a-youme.jp

Copyright© 第40回日本がん看護学会学術集会. All Rights Reserved.

【プログラム】

※プログラムは予告なく変更となる場合がございます。予めご了承ください。

＜1日目＞　1月24日（土）11：45-20：30

テーマ：患者共創の現在地と未来展望

11:00	開場　受付
11:45-11:50	オリエンテーション
11:50-11:55	開会宣言・挨拶
11:55-12:0	アナウンス
12:00-12:50	ランチョンセミナー 「お薬の価値とは」 八木 伸高　日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社　医療政策本部 ペイシェントエンゲージメント部 石塚 達樹　日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社　医療政策本部　HEOR部
13:00-13:40	基調講演1：新しい治療法の潮流 【演者：絹谷清剛/金沢大学核医学診療科教授】
13:40-14:20	基調講演2：遺伝性・家族性のがん医療との向き合い方 【演者：岡野舞子/福島県立医科大学乳腺外科講師】
14:20-14:40	休憩
14:40-15:20	基調講演3：政策提言活動：中級編 【演者：朝井淳太/一般社団法人新時代戦略研究所代表】
15:20-16:00	基調講演4：医療DXの現状と課題 【演者：永田幹広/株式会社プラスメディ代表取締役社長】
16:00-16:20	休憩
16:20-17:50	活動報告（10団体程度、各団体5分、パワポで説明（事前送付））＆活動奨励賞・授与式 地域・分野を越えた患者団体の取り組み紹介 トラベルグラント申請団体による活動報告 FFJCP奨励賞 授与式 受賞者全体写真
17:50-18:00	集合写真撮影
18:30-20:30	交流会（参加費無料）

＜2日目＞　1月25日（日）

テーマ：患者団体の実践と未来技術の融合

08:30	受付開始
09:00-09:40	基調講演5：PED（Patient Experience Data）の活用 【演者：八木 伸高/YORIAI Lab.代表理事】
09:40-10:00	休憩
10:00-11:40	基調講演6：EBAの実践編（アンケート調査・中級編）&ワークショップ 【講師：片山佳代子/群馬大学大学院 情報学研究科】
11:40-12:25	総合討論 2日間のまとめと今後に向けて （初参加者、ベテラン参加者、お話できなかった人など）
12:25-12:30	閉会宣言（FFJCP2027に向けて） ※アンケートのお願い

プログラム

都合により変更となる場合もございますので、予めご了承ください。

■ 第1日目　8月26日(木)

08：40〜08：55	15分	オリエンテーション①
09：00〜09：45	45分	PAP基礎講座①「がんゲノム医療はどこまで進んだか」【カリキュラムコード：がん-1】
10：00〜10：45	45分	PAP基礎講座②「全ゲノム解析のがん医療への応用」【カリキュラムコード：がん-1】
11：00〜11：45	45分	PAP基礎講座③「遺伝カウンセリングと出生前検査」【カリキュラムコード：がん-1】
12：00〜12：50	50分	ランチョンセミナー①
14：00〜14：45	45分	PAP特別企画①「診断時からの緩和ケアを考える」【カリキュラムコード：がん-1】
15：00〜15：45	45分	PAP特別企画②「小児がん・AYAがんの移行期支援を考える」【カリキュラムコード：がん-1】
16：00〜16：45	45分	PAP特別企画③「Highlights of the day―学術集会1日目のポイント」

■ 第2日目　8月27日(金)

08：20〜08：35	15分	オリエンテーション②
08：40〜09：25	45分	PAP基礎講座④「がん免疫療法と複合免疫療法」【カリキュラムコード：がん-1】
09：40〜10：25	45分	PAP基礎講座⑤「免疫チェックポイント阻害剤関連有害事象における患者教育とチーム医療」【カリキュラムコード：がん-1】
10：40〜11：25	45分	PAP特別企画④「AIを活用した新薬創出」【カリキュラムコード：がん-1】
12：05〜12：55	50分	ランチョンセミナー②「がん種をこえた意思決定支援 ―肺がん・乳がんに学ぶ必要な情報とは―」
13：10〜13：55	45分	PAPプログラム参加者交流会
14：35〜15：20	45分	PAP特別企画⑤「希少がんに対する新規治療薬の開発」【カリキュラムコード：がん-1】
15：35〜16：20	45分	PAP特別企画⑥「JCOG（日本臨床腫瘍研究グループ）における患者市民参画の取り組み」【カリキュラムコード：がん-1】
16：35〜17：20	45分	PAP特別企画⑦「がん治療における経済毒性」【カリキュラムコード：がん-1】
17：35〜18：20	45分	PAP特別企画⑧「Highlights of the day―学術集会2日目のポイント」

■ 第3日目　3月28日(土)

08：00～08：15	15分	オリエンテーション① 患者がん患者団体連合会による
08：30～09：20	50分	PAP応用講座①「治験を含む臨床試験の枠組みについて」【カリキュラムコード：研究-1・2】 講師：福原　紀子（東京大学医科学研究所附属病院）
09：30～10：20	50分	PAP応用講座②「臨床試験と倫理指針について」【カリキュラムコード：eL-1】 講師：竹下　尚（東京大学医学部）
12：15～13：05	50分	PAP応用講座③ ※ランチョンセミナー 「治験に参加する前に知っておいて欲しいこと」【カリキュラムコード：研究-3・4】 講師：佐々木　治一郎（北海大学医学部新世紀医療開発センター 臨床的医療領域開発部門臨床腫瘍学）
14：00～15：10	130分	PAP応用講座④「グループディスカッション この治験、あなたならお加しますか？」【カリキュラムコード：研究-1・2・3・4】 講師：佐々木　治一郎（北海大学医学部新世紀医療開発センター 臨床的医療領域開発部門臨床腫瘍学） 　　千原　岡（PMDA（独立行政法人医薬品医療機器総合機構）新薬審査第一部） ファシリテーター： 　原田　伊佐雄（日本製薬工業協会） 　杉谷　康雄（日本製薬工業協会） 　前田　美穂（北海大学医学部・大学院医学研究科 北海大学病院 HRD室・医師部） 　久米　真江（北海研究所病院看護部） 　國枝　喜之（勤医協中央病院呼吸器内科） 　三浦　幸絵（東京都立大学人間健康科学研究科看護科学域健康増社学部看護学科） 　三浦　隆（みうらクリニック） 　中田　京（秋田厚生医療センター呼吸器内科） 　細田　美子（北海大学病院 看護部） 　山本　明子（北海大学病院 臨床研究推進センター） 　渡邊　清高（名古屋大学医学部内科学講座 腫瘍内科） 　井上　円加（PMDA（独立行政法人医薬品医療機器総合機構）新薬審査第四部）

学術集会会長によるPAPプログラム参加者向け推奨プログラム

PAPプログラム参加者は、PAPプログラム参加に加えて、学術集会本会で開催されるプログラムの聴講も可能です。（企業共催プログラムなど一部プログラムを除く）。学術集会本会で開催されるプログラムのうち、学術集会会長がPAPプログラム参加者に聴講を推奨するプログラムは、次の通りです。ご参考ください（聴講は必須ではありません）。

日時	時間	会場	内容
3月26日（木）	8:30～10:00	第4会場 （パシフィコ横浜ノース G5）	シンポジウム（緩和ケア主幹事社） 「量子デバイスを用いた患者個有アウトカムをいかに活用するか～臨床試験や実臨床への導入～」
3月26日（木）	8:30～10:00	第14会場 （パシフィコ横浜ノース G404）	委員会企画（会員委員会／キャリアエンパワーメント委員会） 「クロスオーバーオンコロジー　腫瘍内科医が切り拓くこれからのがん診療の未来」
3月26日（木）	9:00～10:00	第6会場 （パシフィコ横浜ノース G303＋G304）	委員会企画（広報渉外委員会） 「がん情報、誰にどう届ける？ ～多職種・多施設・多団体をつなぐコミュニケーション～」
3月26日（木）	10:10～11:40	第4会場 （パシフィコ横浜ノース G5）	シンポジウム（緩和ケア主幹事社） 「あらためて在宅医療機関とのシームレスな連携を考える」
3月26日（木）	16:05～17:55	第6会場 （パシフィコ横浜ノース G7）	合同シンポジウム（日本緩和医療学会／日本臨床腫瘍学会） 「がん緩和ケアの最新のエビデンス」
3月27日（金）	8:20～9:50	第6会場 （パシフィコ横浜ノース G7）	合同シンポジウム（日本がん・生殖医療学会／日本臨床腫瘍学会） 「がん治療と生殖医療の協働～妊がん患の妊孕能温存～」
3月27日（金）	8:20～9:50	第6会場 （パシフィコ横浜ノース G303＋G304）	委員会企画（教育委員会／若手腫瘍学WG　共催：日本がんサポーティブケア学会） 「多職種で支える高齢者のがん治療～私たちはこうやっています！事例とリアルタイム討議～」
3月27日（金）	10:20～11:50	第6会場 （パシフィコ横浜ノース G303＋G304）	委員会企画（保険委員会） 「希少がんに対するエビデンスのある抗悪性腫瘍薬の保険収載」
3月27日（金）	15:35～17:05	第5会場 （パシフィコ横浜ノース G8）	シンポジウム（患者支援・サバイバーシップ） 「がん医療における患者・家族と医療者とのコミュニケーションを考える」
3月28日（土）	8:20～9:50	第3会場 （パシフィコ横浜ノース G8）	会員企画シンポジウム 「＜新専門医制度承認記念企画＞ がん薬物療法専門医－現状と未来」
3月28日（土）	10:30～12:00	第2会場 （パシフィコ横浜ノース G1） PAP会場中継	会員企画シンポジウム 「がん患者が求める専門医とは」

群馬大学情報学研究科准教授

国立がん研究センター
がん対策情報研究所データサイエンス研究部
外来研究員（兼任）



片山　佳代子　先生

患者・市民参画（Patient and Public Involvement）の概念は、障がい者権利条約スローガン「Nothing About Us Without Us」に強く影響を受け発展してきました。日本では2017年に日本製薬工業協会のタスクフォースの立ち上げ、AMEDは2019年度公募より研究開発提案者にPPIの記載を求める等、急速に発展してきています。特にがん研究においては第3、4期推進計画において「患者・市民参画の推進」が基盤施策として掲げられ、PPI関連のコンテンツが爆誕しています。そのような中で令和4年度から発足した3学会の専門家からなる厚労科研PPI研究班等の研究成果を交え、本講習会では特にがん研究やがん対策、そして臨床研究におけるPPIの最前線についてお伝えします。

＊「人を対象とする生命科学・医学系研究倫理指針」においては、「研究者等は研究に関す

令和８年　４　　月　１　　日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　学校法人帝京大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　沖永　佳史

次の職員の（令和）７年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　がん対策推進総合研究事業

２．研究課題名　がん対策における患者・市民参画を推進するための標準教育プログラムの開発と確立に関する研究

３．研究者名　（所属部署・職名）　医学部内科学講座　教授

（氏名・フリガナ）　渡邊清高（ワタナベ　キヨタカ）

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	学校法人帝京大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和８年　３　月　３０　　日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　学校法人帝京大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　沖永　佳史

次の職員の（令和）7 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　がん対策推進総合研究事業

２．研究課題名　がん対策における患者・市民参画を推進するための標準教育プログラムの開発と確立に関する研究

３．研究者名　（所属部署・職名）　帝京大学医学部緩和医療学講座・主任教授

（氏名・フリガナ）　有賀 悦子・アルガ エツコ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学･医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	□	学校法人帝京大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和８年３月１０日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　国立大学法人群馬大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　石崎　泰樹

次の職員の令和 7 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　がん対策推進総合研究事業

２．研究課題名　がん対策における患者・市民参画を推進するための標準教育プログラムの開発と確立に関する研究

３．研究者名　（所属部署・職名）情報学部情報学科・准教授

（氏名・フリガナ）片山　佳代子・カタヤマ　カヨコ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無 有　無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
		審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	■　□	■	帝京大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2026 年 4 月 10 日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　北里大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　砂塚　敏明

次の職員の（令和）7 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　がん対策推進総合研究事業

２．研究課題名　がん対策における患者・市民参画を推進するための標準教育プログラムの開発と確立に関する研究

３．研究者名　（所属部署・職名）　医学部附属新世紀医療開発センター横断的医療領域開発部門臨床腫瘍学・教授

（氏名・フリガナ）佐々木　治一郎・ササキ　ジイチロウ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学･医学系研究に関する倫理指針（※3）	□　■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）

当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：調査研究自体には参加しないため）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2026年3月10日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　琉球大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　喜納　育江

次の職員の（令和）7年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　がん対策推進総合研究事業

２．研究課題名　がん対策における患者・市民参画を推進するための標準教育プログラムの開発と確立に関する研究

３．研究者名　（所属部署・職名）　病院・特命准教授

（氏名・フリガナ）　増田 昌人・マスダ マサト

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学･医学系研究に関する倫理指針（※3）	□　■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和８年　３月　３０　日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　　学校法人帝京大学

所属研究機関長　職　名　　学長

氏　名　　冲永佳史

次の職員の（令和）７年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　　がん対策推進総合研究事業

２．研究課題名　　がん対策における患者・市民参画を推進するための標準教育プログラムの開発と確立に関する研究

３．研究者名　（所属部署・職名）　　医学部医学教育学講座　教授

（氏名・フリガナ）　　大久保由美子（オオクボユミコ）

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	■　□	■	学校法人帝京大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和8年　3月　4日

厚生労働大臣
~~（国立医薬品食品衛生研究所長）~~ 殿
~~（国立保健医療科学院長）~~

機関名　キャンサー・ソリューションズ株式会社

所属研究機関長　職　名　代表取締役社長

氏　名　桜井　なおみ

次の職員の（令和）7年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　がん対策推進総合研究事業

２．研究課題名　がん対策における患者・市民参画を推進するための標準教育プログラムの開発と確立に関する研究

３．研究者名　（所属部署・職名）　なし　・　代表取締役社長

（氏名・フリガナ）　桜井　なおみ　・　サクライ　ナオミ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学･医学系研究に関する倫理指針（※3）	□　■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。